

## 現場説明書（技術的事項）

工事名称 （仮称）川南公園便所新築工事

---

### 1 現場の状況

工事場所は、福山市神辺町地内に位置しています。

### 2 別途工事

- ・給排水衛生設備工事
- ・電気設備工事
- ・公園整備工事（工事名：川南土地区画整理事業（仮称）川南公園整備工事）

### 3 福山市週休2日適用工事について

（発注者が指定した工事に該当し実施については○印のついたものを適用する）

- ・発注者指定型
- 受注者希望型

本工事は、持続可能な建設産業の実現に向けた労働環境の改善を目的とする福山市週休2日適用工事です。詳細については、別紙（公共建築工事における福山市週休2日適用工事の実施について）によるものとします。

### 4 留意事項

#### 【共通事項】

- (1) 工事に当たっては、騒音、粉塵、振動、汚染排水等により、近隣住民に迷惑のかからないよう十分配慮してください。
- (2) 車両等の進入・退出・停車等に当たっては十分な注意を払い、通行者等の安全を第一に図ってください。
- (3) 資材の搬入、搬出時にはシート等でカバーするなど、土砂・木片等が飛散しないよう注意するとともに、タイヤ等に付着した土砂によって道路汚損等のないように注意してください。
- (4) 道路等を汚損した場合は、速やかに清掃等の復旧を行い、工事期間中の進入、退出路に係る維持管理（舗装・構造物等の保護養生、補修等）は、受注者で行ってください。
- (5) 工事場所外においても、駐車違反、速度制限、積載制限等交通法規を遵守し、事故防止に万全を期してください。
- (6) 工事に係る留意事項は、協力業者、資材納入業者等にも指導を徹底してください。
- (7) 工事現場内の資機材の保管等については、受注者において十分な管理を行い、各工種・工程における廃材・ごみ等についても、受注者の責任において遅滞なく処理してください。
- (8) 実施工程表は、契約後14日以内に提出し承諾を受けてください。また、施工関係書についても速やかに提出し、承諾を受けてください。
- (9) 工事により周囲の建物や工作物に汚損等が生じた場合は、監督員及び施設管理者に報告するとともに、受注者の責任で速やかに復旧してください。

- (10) 特定建設資材は再資源化に努め、産業廃棄物は関係法令に従い適切に処理してください。
- (11) 工事施工に必要な官公署への手続は、受注者の責任において速やかに行い、手続を行った場合は、速やかに報告してください。
- (12) 受注者は、地元企業、地場製品の活用に努めてください。
- (13) 受注者は、各種工事の職種を問わず、積極的に「技能士」適用に努めてください。

**【特記事項】**

- (1) 同一敷地内では、先行して公園整備工事が行われています。仮設計画については、別途工事と十分な調整を行い、工事範囲の明示と安全の確保を行ってください。
- (2) 本工事場所の進入口及び通路は、別途工事に際し工事期間中も確保する必要があるため、各入口や通路の通行と安全の確保を行ってください。
- (3) 現場着手日及び工事関係車両の駐車場の計画は、あらかじめ協議の上、決定してください。
- (4) 施工前に施工図を提出し、監督員の承諾を受けてください。

公共建築工事における福山市週休2日適用工事の実施について

- 1 本工事は、契約締結後において受注者の希望により行う、週休2日適用工事である。  
なお、本適用工事の取組を希望しない受注者は、5～12に規定する義務を負わない。
- 2 本工事において「週休2日」とは、次の各号に定める区分に応じ、当該各号に定める条件を満たすものをいう。
  - (1) 完全週休2日(土日) 対象期間の全ての週(原則として、土曜日から金曜日までの7日間とする。以下同じ。)毎に現場閉所又は現場休息(以下「現場閉所等」という。)を原則として土曜日及び日曜日に指定し、1週間に2日以上現場閉所等を行うものをいう。ただし、当該期間に、日数が7日に満たない週を含む場合においては、当該週の土曜日及び日曜日の合計日数以上の現場閉所等を行うことで、1週間に2日以上現場閉所等を行っているものとみなす。
  - (2) 月単位の週休2日 対象期間の全ての月毎に現場閉所等の日数が、4週8休(現場閉所等の割合が28.5%(8日/28日)以上のものをいう。以下同じ。)以上であるものをいう。ただし、当該期間に、暦上の土曜日及び日曜日の現場閉所等では4週8休に満たない月又は日数が28日に満たない月を含む場合においては、当該月の対象期間内の土曜日及び日曜日の合計日数以上の現場閉所等を行うことにより、4週8休以上であるものとみなす。
- 3 本適用工事に係る用語の定義は、次の各号に定めるものとする。
  - (1) 現場閉所 巡回パトロール、保守点検等の現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場及び現場事務所が閉所された状態をいう。
  - (2) 現場休息 分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態をいう。
  - (3) 対象期間 工事着手日(準備期間(契約上の工事の始期から現場事務所などの設置、測量、本体工事又は仮設工事のいずれか最も早い日までの期間をいう。)を除く。)から工事の完成日(後片付け期間(契約図書に基づく工事目的物の施工が全て完了し、余剰資材等の撤去、現場の清掃等、工事の完成検査を受けるために必要な作業を行う期間をいう。)を除く。)までの期間をいう。ただし、次の期間は対象期間から除くものとする。
    - ア 年末年始6日間及び夏季休暇3日間
    - イ 工場製作のみが行われている期間
    - ウ 災害時の緊急対応その他受注者の責めによらず、休工又は現場作業を余儀なくされた期間
- 4 受注者は、工事着手までに監督員に対し、週休2日実施の有無及び実施する週休2日の区分について申し出るとともに、実施する場合は、現場閉所(現場休息)計画表兼実績表(以下「計画表」という。)を提出するものとする。  
なお、工事着手前に週休2日を実施しない旨を申し出た場合は、工事着手後の週休2日

を実施する旨の申出は受け付けないものとする。

5 受注者は、天候を理由として現場閉所等を行う場合のほか、次に掲げる場合は、監督員との協議により工事着手後であっても週休日を変更することができるものとする。

- (1) 品質管理、安全管理等のため作業を継続して行う必要がある場合
- (2) その他工程の都合上やむを得ない場合

6 受注者は、当該工事が週休2日適用工事である旨を、施設管理者の承諾を得て所定の様式により公衆の見やすい場所に掲示しなければならない。

7 受注者は、計画表に現場閉所等の状況を記入し、現場閉所等の状況が確認できる書類（工事日誌、出勤簿等をいう。）とともに毎月7日（7日が閉庁日の場合は翌開庁日）まで及び工事完成後速やかに、工事打合せ簿により監督員に提出し、確認を受けるものとする。

8 週休2日を理由とする工期延長については、認めないものとする。

9 受注者は、週休2日を実施できなくなった場合は、速やかにその旨及び理由を工事打合せ簿により監督員に報告するものとする。

10 経費については、次の各号に掲げる現場閉所等の実績に基づき、当該各号に定める補正係数を用いて労務費（予定価格のもととなる工事費の積算に用いる複合単価、市場単価及び物価資料の掲載価格（材工単価）の労務費とする。）及び現場管理費を補正するものとする。

なお、発注時点では、週休2日の経費を見込んでおらず、現場閉所等の実績に基づき、変更契約を行うものとする。

(1) 完全週休2日（土日）

ア 労務費 1.02

イ 現場管理費 1.01

(2) 月単位の週休2日

労務費 1.02

11 週休2日を達成したときは、工事成績評定表の「工程管理」及び「創意工夫」において評価するものとする。

なお、週休2日を達成できなかった場合であっても、工事成績評定は減点しない。

12 計画表その他の提出資料に虚偽の記載等を行った場合は、指名除外措置の対象となる場合がある。

# (仮称) 川南公園便所新築工事

図面リスト			
図面番号	図名	図面番号	図名
A-01	図面リスト	S-01	建築工事 特記仕様書 構造関係
A-02	建築工事 特記仕様書 No.1	S-02	鉄筋工事仕様書 No.1
A-03	建築工事 特記仕様書 No.2	S-03	鉄筋工事仕様書 No.2
A-04	建築工事 特記仕様書 No.3	S-04	基礎伏図
A-05	建築工事 特記仕様書 No.4	S-05	1階伏図、R階伏図
A-06	工事区分表	S-06	軸組図
A-07	付近見取図、配置図 兼 仮設計画図		
A-08	平面図、仕上表		
A-09	立面図		
A-10	断面図		
A-11	展開図 1		
A-12	展開図 2		
A-13	屋根伏図、天井伏図		
A-14	建具配置図、建具表		

福山市建設局建築部営繕課				2025年 9月	
主務	課員	次長	課長補佐	営繕課長	建築部長

		福山市建設局建築部営繕課	工事名称 (仮称) 川南公園便所新築工事	図面No
		設計 2025年 9月	図面名称 図面リスト	A-01

# 福山市建築工事特記仕様書

Ⅰ 工事概要	特記事項				
1. 工事名称 2. 工事場所 3. 用途地域 4. 防火地域 5. 工事種別 6. 敷地面積 7. 建物概要 8. 別途工事	(仮称) 川南公園便所新築工事 福山市神辺町地内 第一種住居地域 防火地域：準防火地域 ○指定なし 工事種別：○新築 増築 敷地面積 3,202.80㎡ 建物概要：RC造、平家建 建築面積 20.00㎡ 延べ面積 20.00㎡				
3) 付属施設	<table border="1"> <tr> <th>床面積</th> <th>屋外便所</th> </tr> <tr> <td>1F</td> <td>20.0㎡</td> </tr> </table>	床面積	屋外便所	1F	20.0㎡
床面積	屋外便所				
1F	20.0㎡				
8) 別途工事	○電気設備工事 ○給排水衛生設備工事 ・空調設備工事 ・ガス設備工事 ・昇降機設備工事 ・カーテン取付工事 ・補綴工事 ○公園整備工事				
※ 本工事の工期は設備工事の工期及び工事検査期間としての14日を含んでいる。 ※ 契約締結後14日以内に実施工程表を提出する。 ※ 本工事とは、法定外の労災保険を見込んでいない。					
Ⅱ 建築工事仕様	特記事項				
1. 共通仕様	図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（以下「建築標準仕様書」という。）による。ただし、アスベスト成形板の処理等は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修、公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（以下「建築改修標準仕様書」という。）による。 電気設備工事及び機械設備工事は本工事を含む場合は、それぞれ公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）、公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）による。 (1) 官公署手続き 受注者は関係官公署への必要手続きを代行する。（官公署手続きは監督員の承諾後とする。） (2) 地元企業及び地場製品の活用 受注者は、地元企業及び地場製品の積極的な活用に努める。 (3) 疑義に対する協議等 設計図書に定められた内容に疑義が生じた場合は現場の納まり、取り合い等の関係で、設計図書によることが困難若しくは不都合が生じた場合は、監督員と協議する。 2. 特記仕様 (1) 章、項目は番号に○印のついたものを適用する。 (2) 特記事項は○印のついたものを適用する。 ○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。 ○印と◎印のついた場合は共に適用する。 (3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、「建築標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (4) 材料および製造等々の記載順序は不同である。 3. 引渡し後、次に示す点検を行う。（○印のついたものを適用する。） ・引渡し後点検（第1次点検） 引渡しの概ね1年後 ・引渡し後点検（第2次点検） 引渡しの概ね2年後				

章	項目	特記事項								
① 一般共通事項	① 適用基準等	・ 公共住宅建設工事共通仕様書（令和元年度版） ・ 建築工事標準詳細 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（令和4年版） ・ 建築構造設計基準及び同解説 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（平成22年版） ・ 建設工事公害災害防止対策要綱（建築工事編）建設経済局建設課・住宅局建築指導課監修 ・ 建築工事安全施工技術指針 建設大臣官房官庁営繕部監督課長通達 ・ 建築改修標準仕様書 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版） ・ 建築基準法、消防法、その他関係法令 ・ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律への対応 ・ 建築物移動等円滑化誘導基準（認定）								
	② 監理(主任)技術者	受注者は、監理技術者及び主任技術者を建設業法により定め、工事現場内において工事名、工期、写真、所属会社名及び証明印の入った名札を着用する。								
	③ 工事実績情報の登録	※ 受注者は、次表に従い、工事実績情報を登録する。（1.1.4） 登録内容について、あらかじめ監督員の承諾を受けたのちに、次表の期間内に登録申請を行う。ただし、期間には、土曜日、日曜日、祝日、年末年始の閉庁日を除く。 <table border="1"> <tr> <th>請負金額</th> <th>工事受注時</th> <th>登録内容の変更時</th> <th>工事完成時</th> </tr> <tr> <td>500万円以上</td> <td>契約後10日以内</td> <td>変更契約後10日以内</td> <td>工事完成後10日以内</td> </tr> </table> 変更登録は、工期、技術者等に変更が生じた場合に行う（請負代金のみ変更の場合、登録不要） ※ 登録後は速やかに登録されたことを証明する資料を監督員に提出する。 なお、変更時と工事完成時の間が10日に満たない場合は、変更時の提出を省略できる。（登録要）	請負金額	工事受注時	登録内容の変更時	工事完成時	500万円以上	契約後10日以内	変更契約後10日以内	工事完成後10日以内
	請負金額	工事受注時	登録内容の変更時	工事完成時						
	500万円以上	契約後10日以内	変更契約後10日以内	工事完成後10日以内						
	④ 別契約の関連工事との調整等	施工範囲 「工事区分表」による。 関連工事との調整 ※ 別契約の関連工事受注者が足場などを使用する場合は無償とする。 ※ 別契約の関連工事受注者と工程を含めた総合的な打合せを定期的に行い、監督員の調整に協力し、当該工事関係者とともに円滑な施工に努める。								
⑤ 施工管理	受注者は施工管理体制を確立し、品質、工程、安全等の施工管理を行う。（1.3.1） ※ 施工体制台帳（建設業法等に従って作成し、写しを提出する。）（1.1.5） 技術者台帳（施工体制台帳に添付） 監理技術者・主任技術者（下請を含む）及び専門技術者の写真、名前、生年月日、所属会社名を記載する。 ※ 施工体系図（建設業法に基づき、当該現場の見やすい場所に掲示する。）									
6 電気保安技術者	・適用する ・適用しない									
7 施工条件	○作業時間は、原則午前8時から午後5時までとし、通学時間帯を考慮すること。（1.3.5） ○日曜日及び祝日に作業を行わないこと。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、この限りではない。									

記号・略号	(一般)	(構造材料)	(建 具)
BM	ベンチマーク	UP.....上がる	AD.....アルミ製ドア
GL	基準地盤面	DN.....下がる	AW.....アルミ製窓
FS	基準床面	RC.....鉄筋コンクリート	SD.....ステンレス製ドア
W	内法巾	PC.....プレキャストコンクリート	AG.....アルミ製ガリ
H	内法高	DS.....ダクトスペース	W.....木
		ALC.....軽量気泡コンクリート	LG.....軽量鉄鋼
		EV.....エレベータ	SG.....鋼製ガリ

章	項目	特記事項																			
⑧	⑧ 施工中の安全確保	・労働安全衛生法第30条第2項の規定に基づく指名・無し（1.3.7） ① 工事中は、騒音、振動の発生、粉塵の飛散（散水）、道路の汚染等の防止に努めること。 ※低騒音型・低振動型建設機械を使用すること（近隣住民の生活環境の保全の必要性がある場合） ・本工事は、交通誘導員として 人を見込んでいない。 交通誘導員の配置については、実施伝票（原本）および配置状況のわかる立会写真の撮影を行い監督員に提出する。																			
	⑨ 発生材の処理	・引渡しを要するもの（ ）（1.3.11） ・現場において再利用を図るもの（ ） ※ 再資源化を図るもの ○アスファルトコンクリート ○コンクリート ○木材 ○コンクリート及び鉄からなる建設資材 ※ 上記以外のものはすべて構外に搬出し、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という）、「資源の有効な利用の促進に関する法律」（以下、「資源有効利用促進法」という）、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下、「廃棄物処理法」という）その他関係法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い適正に処理する。 ※ 建設副産物情報交換システム（COBRIS）（財）日本建設情報総合センター 本工事は登録対象工事であるため、受注者は、施工計画時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は速やかに当該システムにデータの登録を行うものとする。 また、建設リサイクル法に規定する建設資材を搬入（搬出）する場合は、次表により計画書（実施書）を提出する。なお、これにより難い場合は、監督員と協議する。 <table border="1"> <tr> <th>搬入</th> <th>再生資源利用計画書</th> <th>工事完了時</th> <th>再生資源利用実施書</th> </tr> <tr> <th>搬出</th> <th>再生資源利用促進計画書</th> <th>再生資源利用促進実施書</th> <th></th> </tr> </table> ※ 本工事で発生する建設廃棄物のうち、広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については、広島県産業廃棄物埋立税が課税される。 なお、本工事で広島県産業廃棄物埋立税相当額を含んでいる。	搬入	再生資源利用計画書	工事完了時	再生資源利用実施書	搬出	再生資源利用促進計画書	再生資源利用促進実施書												
	搬入	再生資源利用計画書	工事完了時	再生資源利用実施書																	
	搬出	再生資源利用促進計画書	再生資源利用促進実施書																		
	⑩ 建築材料等	建築材料の製造者、製品及び施工業者などは、特記されたもの又は同等のものとする。ただし、同等とする場合は、監督員の承諾を受ける。 また（社）公共建築協会が実施する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた材料・機材等を使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出する。 圏等による環境物品等の調達に促進に関する法律（平成12年法律第100号）、「グリーン(1.4.1)購入法」という)により、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。 材料の選定に当たっては、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとする。 本工事の施工に当たり、東洋ゴム化工品（株）又はニッタ化工品（株）で製造された製品や材料を用いる場合には、第三者機関による品質を証明する書類を提出すること。																			
	11 特別な材料の工法																				
	12 技能士	<table border="1"> <tr> <th>工事別</th> <th>適用種別</th> <th>工事別</th> <th>適用種別</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	工事別	適用種別	工事別	適用種別															
	工事別	適用種別	工事別	適用種別																	
	13 化学物質の濃度測定	受注者は、引渡し前に次の対象物質について室内空気中に含まれる濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督員に報告する。 対象物質 ・ 4項目（ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン） ・ 5項目（ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン） <sup>(注)</sup> ・ 6項目（ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン） (注) 文部科学省の「学校環境衛生の基準」による。 測定方法 ※ 計画書を提出し、監督員の承諾を受ける。 対象さま 測定箇所数																			
	14 アスベスト含有成形板の処理等	処理を行うアスベスト含有成形板の仕様及び部位 <table border="1"> <tr> <th>アスベスト含有成形板の仕様</th> <th>使用部位</th> </tr> <tr> <td>・ 石綿スレート</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 石綿セメントつけい酸カルシウム板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ その他( )</td> <td></td> </tr> </table> ※ 事前に施工調査等により広く確認を行う。 安全管理 ※ 石綿作業主任者 石綿障害予防規則（平成17年厚生労働省令第21号。以下、「石綿則」という。）に基づき、石綿作業主任者を選定する。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者、又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。 ・ 除去作業 アスベスト含有建材の除去に従事する作業者（以下「除去作業者」という。）は、石綿側に基づく特別の教育を受けた者とする。 ・ 表示及び掲示 作業現場の見やすい場所に、石綿則第34条に基づく掲示をする。 除去作業者の呼吸用保護具・保護衣 ・ 呼吸用保護具（国家検定合格品・RL2又はRS2） ・ RLS2又はRS2 ※ その他の仕様は建築改修標準仕様書による。	アスベスト含有成形板の仕様	使用部位	・ 石綿スレート		・ 石綿セメントつけい酸カルシウム板		・ その他( )												
	アスベスト含有成形板の仕様	使用部位																			
	・ 石綿スレート																				
	・ 石綿セメントつけい酸カルシウム板																				
・ その他( )																					
15 工事及び完成写真	<table border="1"> <tr> <th>分類</th> <th>規格</th> <th>撮影枚数</th> <th>提出部数</th> </tr> <tr> <td>着 手 前</td> <td>L 1程度（カラー）</td> <td>必要に応じた数</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>工 事 中</td> <td>L 1程度（カラー）</td> <td>必要に応じた数</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>完 成 時</td> <td>L 1程度（カラー）</td> <td>各 室 4 面</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 L 1程度（カラー）</td> <td>外 景 4 面</td> <td></td> </tr> </table> 着手前・工事中写真 ※ A4判印刷、若しくはA4判写真機 完成時写真 ※ アルバム（A4判程度） ・ 写真機（検査後14日以内に提出する。） 原簿の提出 ※ する（※完成時のみ ・ 全） ・ しない （電子データ形式等は、監督員の指示による。）	分類	規格	撮影枚数	提出部数	着 手 前	L 1程度（カラー）	必要に応じた数	1	工 事 中	L 1程度（カラー）	必要に応じた数	1	完 成 時	L 1程度（カラー）	各 室 4 面	1		2 L 1程度（カラー）	外 景 4 面	
分類	規格	撮影枚数	提出部数																		
着 手 前	L 1程度（カラー）	必要に応じた数	1																		
工 事 中	L 1程度（カラー）	必要に応じた数	1																		
完 成 時	L 1程度（カラー）	各 室 4 面	1																		
	2 L 1程度（カラー）	外 景 4 面																			
16 完成時の提出図書	速やかに次の図書を提出する。 ※ 竣工図（◎完成図） ・ 承諾図（○施工図）（1.7.1） ○ A3判を2つ折りにして製本 2部 ・ 部 ○ 竣工図電子データ 一式（竣工図電子データ作成要領による。） ○ CADデータ（媒体（CD-R等）、データ形式等は監督員の指示による。）（1.7.2） 保全に関する資料 部（1.7.3）																				

章	項目	特記事項																																															
⑪	保証書	次の工事について保証書を提出する <table border="1"> <tr> <th>工事区分</th> <th>材料名</th> <th>保証年限</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○防水工事</td> <td>・ アスファルト防水</td> <td>10年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 改質アスファルト防水</td> <td>10年</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 合成高分子ルーフィング防水</td> <td>10年</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○塗膜防水</td> <td>・ 屋根防水</td> <td>10年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 屋根工事</td> <td>・ 長尺金属板葺き</td> <td>年</td> <td>漏水の場合等</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 折板葺き</td> <td>年</td> <td>漏水の場合等</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 瓦葺き</td> <td>年</td> <td>漏水の場合等</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 防錆工事</td> <td>・ フローリング及び塗装</td> <td>年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 特殊床工事</td> <td>・ プール本体</td> <td>年</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ プール工事</td> <td>・ 塗装（通常塗装の場合）</td> <td>年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 補綴工事</td> <td>・ 活着</td> <td>1年</td> <td>枯死の場合</td> </tr> </table>	工事区分	材料名	保証年限	備考	○防水工事	・ アスファルト防水	10年		・ 改質アスファルト防水	10年			・ 合成高分子ルーフィング防水	10年		○塗膜防水	・ 屋根防水	10年		・ 屋根工事	・ 長尺金属板葺き	年	漏水の場合等		・ 折板葺き	年	漏水の場合等		・ 瓦葺き	年	漏水の場合等	・ 防錆工事	・ フローリング及び塗装	年		・ 特殊床工事	・ プール本体	年		・ プール工事	・ 塗装（通常塗装の場合）	年		・ 補綴工事	・ 活着	1年	枯死の場合
	工事区分	材料名	保証年限	備考																																													
○防水工事	・ アスファルト防水	10年																																															
	・ 改質アスファルト防水	10年																																															
	・ 合成高分子ルーフィング防水	10年																																															
○塗膜防水	・ 屋根防水	10年																																															
	・ 屋根工事	・ 長尺金属板葺き	年	漏水の場合等																																													
	・ 折板葺き	年	漏水の場合等																																														
	・ 瓦葺き	年	漏水の場合等																																														
・ 防錆工事	・ フローリング及び塗装	年																																															
	・ 特殊床工事	・ プール本体	年																																														
・ プール工事	・ 塗装（通常塗装の場合）	年																																															
	・ 補綴工事	・ 活着	1年	枯死の場合																																													
⑫	施工図及び施工計画書	提出した施工図及び施工計画書の著作に係る当該建物に限る著作権は、発注者に移譲するものとする																																															
⑬	情報共有システム	本工事は、インターネットを利用して、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、効率化を図る情報共有システムの対象工事である。 本工事で利用する情報共有システムは、「広島県工事中情報共有システム」とし、当該サービス提供者との契約は受注者が行い、利用料を支払うものとする。 運用に当たっては、「福山市発注工事における情報共有システム利用実施要領（建築工事）及び「情報共有システム利用手引（建築工事）」によるものとする。 ・ 発注者指定型 共通仮設費として除法共有システムの利用料を見込んでいない。 受注者は、本システムを利用できない特別の事由がある場合は、工事着手までに当該事由を記載した工事打合せ簿を監督員に提出し、その承諾を得ることで本システムを利用しないことができる。 ○ 受注者希望型（契約時の請負金額が500万円以上のものに限る） 工事費には情報共有システムの利用料を見込んでいない。 本システムの利用を希望する受注者は、工事着手までに工事打合せ簿により、監督員にその旨を申し出て、本システムを利用するものとする。 その場合の請負金額の変更については、情報共有システムの利用料を共通仮設費に見込むものとし、本システムの利用を確認した後に変更契約を行うものとする。																																															
⑭	⑭ 1 工事現場仮囲い	・ ナイロンロープ張り ・ 木製仮囲い ・ 鋼製仮囲い ○ ガードフェンス																																															
	2 監督員事務所	・ 設ける（㎡程度） ・ 設けない ・ 備品等（ ）																																															
	3 受注者事務所等	・設ける（ ）																																															
	4 工事用水	構内既存の施設 ・ 有償で利用できる（副メーター設置等） ・ 無償で利用できる ○ 利用できない																																															
	5 工事用電力	構内既存の施設 ・ 有償で利用できる ・ 無償で利用できる ○ 利用できない																																															
	6 引渡しまでの光熱水費	・ 本引込みより引渡しまでの基本料金 ※ 受注者負担 ・ 別途 ・ 本引込みより引渡しまでの使用料金 ※ 受注者負担 ・ 別途																																															
	7 安全対策																																																
	8 足場その他	(2.2.4)																																															
	9 現状確認	・ 工事の着手に先立ち、関係者立会いのうえ図面に基づく敷地や周辺の状況及び高低差などを確認する。																																															
⑮	⑮ 1 埋戻し及び盛土	種別 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種（表3.2.1）																																															
	2 建設発生土の処理	※ 構外搬出適切処理（再資源化処理施設へ搬入する） ・ 構内指示の場所に敷きならし ○ 構内指示の場所に堆積 ・ 構外指示の場所に処分 処分先 ※ 搬出先は、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、計量伝票等（原本）を監督員に提出する。																																															
⑯	⑯ 4 地業工事	特記仕様書（構造関係）による																																															
	⑰ 鉄筋工事	特記仕様書（構造関係）による																																															
	⑱ コンクリート工事	特記仕様書（構造関係）による																																															

章	項目	特記事項																								
⑰	⑰ 1 コンクリートブロック	ブロックの種類及び厚さ ※ 空洞ブロック16 ※ 空洞ブロック08（8.2.2）（表3.2~3） <table border="1"> <tr> <th>種類・厚さ</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>厚さ150</td> <td>面台下地</td> </tr> </table> 各部の配筋 ※ 図示による（8.3.3）	種類・厚さ	適用箇所	厚さ150	面台下地																				
	種類・厚さ	適用箇所																								
厚さ150	面台下地																									
2 ALCパネル	ALCパネルの種類等（8.4.2~7）（表8.4.2~4） <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>単位荷重(N/㎡)</th> <th>耐火性能</th> <th>工法種別</th> </tr> <tr> <td>・ 外壁用</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>・ 間仕切用</td> <td></td> <td></td> <td>30分</td> <td>・ C種 ・ D種 ・ E種</td> </tr> <tr> <td>・ 屋根用</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ F種</td> </tr> <tr> <td>・ 床用</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ F種</td> </tr> </table> 外壁パネル工法における耐風圧性能及び耐震性能 ※ 図示による 伸縮目地への耐火目地材の充填 ・ 適用する ・ 適用しない	種類	厚さ(mm)	単位荷重(N/㎡)	耐火性能	工法種別	・ 外壁用				・ A種 ・ B種	・ 間仕切用			30分	・ C種 ・ D種 ・ E種	・ 屋根用				・ F種	・ 床用				・ F種
種類	厚さ(mm)	単位荷重(N/㎡)	耐火性能	工法種別																						
・ 外壁用				・ A種 ・ B種																						
・ 間仕切用			30分	・ C種 ・ D種 ・ E種																						
・ 屋根用				・ F種																						
・ 床用				・ F種																						
⑱	3 押出成形セメント板	押出成形セメント板の種類等（8.5.2~5）（表8.5.1~2） <table border="1"> <tr> <th>表面形状</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>耐火性能</th> <th>取付工法の種別</th> </tr> <tr> <td>・ 外壁 ※ フラットパネル</td> <td></td> <td></td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>・ 間仕切壁 ※ フラットパネル</td> <td></td> <td></td> <td>・ B種 ・ C種</td> </tr> <tr> <td>・ デザインパネル(図示)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 外壁パネル工法における耐風圧性能及び耐震性能 ※ 図示による製造所	表面形状	厚さ(mm)	耐火性能	取付工法の種別	・ 外壁 ※ フラットパネル			・ A種 ・ B種	・ 間仕切壁 ※ フラットパネル			・ B種 ・ C種	・ デザインパネル(図示)											
	表面形状	厚さ(mm)	耐火性能	取付工法の種別																						
・ 外壁 ※ フラットパネル			・ A種 ・ B種																							
・ 間仕切壁 ※ フラットパネル			・ B種 ・ C種																							
・ デザインパネル(図示)																										
1 アスファルト防水	(9.2.2)（表9.2.1~表9.2.10） <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工場所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> ・ 屋根保護防水層（断熱工法）の断熱材（オゾン層を破壊する物質を使用しないもの） 材質及び種類 ※ 押出法* リフォーム断熱材3種BA（2層層付き）（JIS A 9521（建築用断熱材）） 厚さ ・ mm ・ 屋根露出防水層（断熱工法）の断熱材（オゾン層を破壊する物質を使用しないもの） 材質 ※ 発泡* スチレン発熱材（JIS A 9521） 種類 ・ 厚さ ・ mm 防水上り部の保護 種類 ・ ※ 乾式保護材 製造所 評価名簿による 屋根露出防水絶縁工法の脱気装置 ・ 設けない ※ 設ける 種類 ・ 平床部脱気型 ・ 立上り部脱気型 設置数 箇所	種別	施工場所																							
種別	施工場所																									
2 改質アスファルトシート防水	(9.3.2~3)（表9.3.1~3） <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工場所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種別	施工場所																							
種別	施工場所																									
3 合成高分子ルーフィングシート防水	(9.4.2~4)（表9.4.1~2） <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>厚さ</th> <th>仕上げ塗料</th> <th>施工場所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種別	厚さ	仕上げ塗料	施工場所																					
種別	厚さ	仕上げ塗料	施工場所																							
4 塗膜防水	(9.5.2~4)（表9.5.1） <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>仕上げ塗料</th> <th>施工場所</th> </tr> <tr> <td>X-1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>X-2</td> <td>屋根</td> <td></td> </tr> </table> 脱気装置（種別X-1） 種類 ※ 製造所の仕様による ・ 設置数量 ※ 製造所の仕様による ・ 箇所	種別	仕上げ塗料	施工場所	X-1			X-2	屋根																	
種別	仕上げ塗料	施工場所																								
X-1																										
X-2	屋根																									
5 ケイ酸系系塗布防水	(9.6.1~3)（表9.6.1~2） <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工場所</th> </tr> <tr> <td>※ C-U ・ C-UP</td> <td></td> </tr> </table>	種別	施工場所	※ C-U ・ C-UP																						
種別	施工場所																									
※ C-U ・ C-UP																										
6 漏水試験	※ 屋内については水張り試験を行う。																									

章	項		特記事項		章	項		特記事項		章	項		特記事項	
9	シーリング用材料 (9.7.2)	金属	被着体の組合せ		4 セメントモルタルによるセラミックタイル張り (11.2.5)	(表11.2.2) タイル張りの種類 工法				6 造作用集成材 (12.2.1.3)	(12.2.1.3) 集成材の日本農林規格による造作用集成材			
			シーリング材の種類 JIS A6758			※ 密着張り		「造作用集成材」単材の樹種及び厚さ						
			記号 主成分による区分			・改良積上げ張り		「造作用集成材」単材の樹種及び厚さ						
			※ 改良圧着張り			「造作用集成材」単材の樹種及び厚さ								
10	シーリング材の試験 (9.7.5)	金属	接着性試験 ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験 (9.7.5)		5 接着剤によるセラミックタイル張り (11.3.1~2)	(11.3.1)(11.3.2) 有機質接着剤の種類				7 造作用単板積層材 (12.2.1.4)	「JAS0701」に規定する造作用単板積層材			
			※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験			・タイプⅠ ・タイプⅡ ・その他( )		「単板積層材」						
			※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験			・タイプⅠ ・タイプⅡ ・その他( )		「単板積層材」						
			※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験			・タイプⅠ ・タイプⅡ ・その他( )		「単板積層材」						
11	タイル工事	天然石 (10.2.1~2)	石材の品質 床 ※2等品 ・ (10.2.1) 其他 ※1等品 ・		12 工 事	① 適用標準等 ※ 「建築標準仕様書」12.1.1 : 内装の木下地、木造作及び木仕上げの工事				8 直交集成材 (12.2.1.5)	「JAS 3079」に規定する直交集成材			
			石材の種類及び表面仕上げ (10.2.1)(10.2.2)			② 寸法 図面上の寸法は構造材はひき立て寸法、造作材は仕上り寸法とする。		「直交集成材」						
			面台 御影石 20 本磨き 接着張り			③ 表面仕上げ (12.1.4) 見え掛り面の表面仕上げ		「直交集成材」						
			建築基準法に基づき定められた風速 (V0) 及び建築基準法に基づき定められた地表面粗度区分 ※ 図示による ・ 適用しない			④ 木材の含水率 (12.2.1.4) 見え掛り面の表面仕上げ程度は、プレーナー加工のうえ、超自動機械かん、サンダー等により、使用箇所、樹種、仕上げ等に適したものである。		「直交集成材」						
12	タイル工事	取付け金物 (10.2.2)	乾式工法用金物式 ・ スライド方式 ・ ロッキング方式 (10.2.2)(表10.2.4)		13 工 事	⑤ 製材 「製材の日本農林規格」による製材				9 合板等 (12.2.1.6)	「合板の日本農林規格」による下地用合板			
			石材の種類及び表面仕上げ (10.2.1)(10.2.2)			⑥ 下地用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(耳付材・押角)、含水率、保存処理、表面の材質		「普通合板」						
			面台 御影石 20 本磨き 接着張り			⑦ 広葉樹製材 樹種、寸法、等級、含水率、保存処理、表面の材質		「構造用合板」						
			建築基準法に基づき定められた風速 (V0) 及び建築基準法に基づき定められた地表面粗度区分 ※ 図示による ・ 適用しない			⑧ 造作用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(板類・角類)、含水率、保存処理、表面の品質		「構造用合板」						
13	タイル工事	取付け金物 (10.2.2)	乾式工法用金物式 ・ スライド方式 ・ ロッキング方式 (10.2.2)(表10.2.4)		14 工 事	⑨ 製材 「製材の日本農林規格」以外の製材				10 接合具等 (12.2.2.1~3)	釘 湿潤状態となる場所 ※ステンレス製			
			石材の種類及び表面仕上げ (10.2.1)(10.2.2)			⑩ 下地用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(耳付材・押角)、含水率、保存処理、表面の材質		それ以外の場所 ※ステンレス						
			面台 御影石 20 本磨き 接着張り			⑪ 広葉樹製材 樹種、寸法、等級、含水率、保存処理、表面の材質		木ねじ ※ステンレス						
			建築基準法に基づき定められた風速 (V0) 及び建築基準法に基づき定められた地表面粗度区分 ※ 図示による ・ 適用しない			⑫ 造作用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(板類・角類)、含水率、保存処理、表面の品質		置下・下張り用床板等 ※重鉛めつき品						
14	タイル工事	取付け金物 (10.2.2)	乾式工法用金物式 ・ スライド方式 ・ ロッキング方式 (10.2.2)(表10.2.4)		15 工 事	⑬ 下地用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(耳付材・押角)、含水率、保存処理、表面の材質				11 防雨・防蟻処理 (12.3.1) (12.3.1.7~1)	防雨・防蟻処理が必要な樹種による製材			
			石材の種類及び表面仕上げ (10.2.1)(10.2.2)			⑭ 広葉樹製材 樹種、寸法、等級、含水率、保存処理、表面の材質		適用部位 ( )						
			面台 御影石 20 本磨き 接着張り			⑮ 造作用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(板類・角類)、含水率、保存処理、表面の品質		薬剤の加圧注入による防雨・防蟻処理						
			建築基準法に基づき定められた風速 (V0) 及び建築基準法に基づき定められた地表面粗度区分 ※ 図示による ・ 適用しない			⑯ 下地用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(耳付材・押角)、含水率、保存処理、表面の材質		薬剤の塗布等による防雨・防蟻処理						
15	タイル工事	取付け金物 (10.2.2)	乾式工法用金物式 ・ スライド方式 ・ ロッキング方式 (10.2.2)(表10.2.4)		16 工 事	⑰ 下地用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(耳付材・押角)、含水率、保存処理、表面の材質				12 防雨・防蟻処理 (12.3.1) (12.3.1.7~2)	薬剤の塗布等による防雨・防蟻処理			
			石材の種類及び表面仕上げ (10.2.1)(10.2.2)			⑱ 広葉樹製材 樹種、寸法、等級、含水率、保存処理、表面の材質		適用部位 ( )						
			面台 御影石 20 本磨き 接着張り			⑲ 造作用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(板類・角類)、含水率、保存処理、表面の品質		合板等の加圧注入による防雨・防蟻処理						
			建築基準法に基づき定められた風速 (V0) 及び建築基準法に基づき定められた地表面粗度区分 ※ 図示による ・ 適用しない			⑳ 下地用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(耳付材・押角)、含水率、保存処理、表面の材質		保存処理性能区分 ・ K3 ・ ( )						



項	特記事項	項	特記事項	項	特記事項	項	特記事項		
7 金属板張り (14. 6. 2~3)	種別 アルミパンダレド (既製品) 製法 ・ 押し形材 ・ 板曲げ 寸法 (mm) 板幅 板厚 形状 表面処理 伸縮継手 ※設けない ・ 設ける (場所は図示)	16 建築 工事				11 自動ドア開閉装置 (16. 9. 2)	戸の開閉方式 ・ 図示による (16. 9. 2) 自動ドア開閉装置の性能 (16. 9. 2) 駆動装置の性能 ※引き戸駆動装置の場合、標準仕様書16. 9. 11による 防錆の適用 ・ 適用する ・ 適用しない (16. 9. 2) 車椅子使用者用便所出入口の引き戸駆動装置の性能 ※標準仕様書16. 9. 11による 防錆の適用 ・ 適用する ・ 適用しない 検出装置の性能 ※引き戸検出装置の性能は標準仕様書16. 9. 13による 防錆の適用 ・ 適用する ・ 適用しない (16. 9. 2) 引き戸検出装置の種類 標準仕様書16. 9. 4による (16. 9. 2) 種類・光線 (反射) センサー ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 光電センサー ・ 電波センサー ・ タッチスイッチ (無線タッチスイッチ ・ 光電式タッチスイッチ) ・ 押しボタンスイッチ ・ 車椅子使用者便所スイッチ (大形・閉) 押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ 凍結防止措置 ・ 適用する ・ 適用しない (16. 9. 2) 性能 ※標準仕様書 表16. 10. 11による ・ 図示による (16. 10. 3)		
8 アルミニウム製柱 (14. 7. 2~3)	※押出形材 ・ 曲げ材 (14. 7. 2~3) (表14. 7. 1) 部材の種類 ・ 250形 (呼称肉厚は1. 6以上) ・ 300形 (呼称肉厚は1. 8以上) ・ 350形 (呼称肉厚は2. 0以上) 表面処理 種類 ( ) 種 柱等の固定金具の工法等 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※ 図示による			4 網戸 (16. 2. 3)		12 引式上吊り 引装置 (16. 10. 3)			
15 左官 工事	1 ラス系下地 (15. 2. 4) ※図示による。 (15. 2. 4) 2 セッコウボード、 その他のボード下地 (15. 2. 5) 材料 セッコウボード、セッコウラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ セッコウボード 種類 ( ) 厚さ ( mm) セッコウラスボード 種類 ( ) 厚さ ( mm) 木質系セメント板 種類 ( ) 厚さ ( mm) 3 こまい下地 (15. 2. 6) 4 水ずり下地 (15. 2. 7) 材料 木ずり用小幅板の材種 ※杉 (心去り材) 5 モルタル塗り (15. 3. 2~5) 材料 モルタル ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料 ・ 吸水調整材の品質 ※表15. 3. 2による ・ 既製目地材 ・ 使用しない ・ 使用する 形状、寸法 ( ) 床目地 ・ 設ける (工法 ※押し目地) ・ 設けない (15. 3. 5) 外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない (15. 5. 2) (表15. 5. 1)	17 建築 工事	2 セルフレニング 材塗り (15. 5. 2)	種別 厚さ (mm) 施工箇所 ・ セメント系 ※10 ・ セッコウ系 ※10	6 仕上塗り仕上げ (15. 6. 2)	材料 内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (15. 6. 2. 1)	13 重量シャッター (16. 11. 2~3)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16. 11. 2) ・ 屋内用防火シャッター ・ 防護シャッター (16. 11. 2) 外壁開口部に設ける重量シャッター 耐風圧強度 ( )pa (表16. 11. 1) 開閉方式の種類 ※電動式 (手動併用) ・ 手動式 (表16. 11. 1) 防火・防護シャッターは、自動閉鎖機構及び随時閉鎖機構付とし、連動制御盤及び煙感知器は別途とする。 安全装置の設置箇所 安全装置 設置箇所 ・ 急降下制動装置 ・ 急降下停止装置 ・ 図示による ・ 障害物感知装置 ・ 図示による ・ 急降防止機構 ・ 図示による	
6 セルフレニング 材塗り (15. 5. 2)	種別 厚さ (mm) 施工箇所 ・ セメント系 ※10 ・ セッコウ系 ※10			5 樹脂製建具 (16. 3. 2~16. 3. 5)	3 こまい下地 (15. 2. 6) 4 水ずり下地 (15. 2. 7) 材料 木ずり用小幅板の材種 ※杉 (心去り材) 5 モルタル塗り (15. 3. 2~5) 材料 モルタル ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料 ・ 吸水調整材の品質 ※表15. 3. 2による ・ 既製目地材 ・ 使用しない ・ 使用する 形状、寸法 ( ) 床目地 ・ 設ける (工法 ※押し目地) ・ 設けない (15. 3. 5) 外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない (15. 5. 2) (表15. 5. 1)			14 軽量シャッター (16. 12. 2~4)	開閉形式 ・ 電動式 (手動併用) ※手動式 (16. 12. 2) (表16. 12. 1) 耐風圧強度 ( )pa (16. 12. 2) 電動式の場合の安全装置 安全装置 設置箇所 ・ 急降下制動装置 ・ 急降下停止装置 ・ 図示による ・ 障害物感知装置 ・ 図示による ・ 急降防止機構 ・ 図示による
7 仕上塗り仕上げ (15. 6. 2)	材料 内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (15. 6. 2. 1)			6 鋼製建具 (16. 4. 2~6)	7 こまい下地 (15. 2. 6) 4 水ずり下地 (15. 2. 7) 材料 木ずり用小幅板の材種 ※杉 (心去り材) 5 モルタル塗り (15. 3. 2~5) 材料 モルタル ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料 ・ 吸水調整材の品質 ※表15. 3. 2による ・ 既製目地材 ・ 使用しない ・ 使用する 形状、寸法 ( ) 床目地 ・ 設ける (工法 ※押し目地) ・ 設けない (15. 3. 5) 外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない (15. 5. 2) (表15. 5. 1)			15 ガラス (16. 14. 2~3)	ガラスの種類、厚さの組合せ、品質等 (16. 14. 2) ※ 図示による (16. 14. 2) ガラス留め材 (16. 14. 2) (表16. 14. 3) (表9. 7. 1)
8 マスチック塗装塗り (15. 7. 2)	種別 ・ A種 ・ B種 (15. 7. 2)			7 鋼製軽量建具 (16. 5. 2~6)	8 マスチック塗装塗り (15. 7. 2) 種別 ・ A種 ・ B種 (15. 7. 2)			16 塗 装 工 事	1 材料 (18. 1. 3) 塗 装 工 事 1 材料 (18. 1. 3) 塗 装 工 事 2 塗装面の確認等 (18. 1. 7) 3 素地ごしらえ (18. 2. 2~7)
9 しっくい塗り ※図示による (15. 10. 1) (15. 10. 2) (15. 10. 3) (15. 10. 4) (表15. 10. 1~表15. 10. 5) 10 こまい壁塗り ※図示による (15. 11. 2~5) (15. 11. 7~8) (表15. 11. 9)				8 ステンレス製建具 (16. 6. 2~5)	9 しっくい塗り (15. 10. 1) (15. 10. 2) (15. 10. 3) (15. 10. 4) (表15. 10. 1~表15. 10. 5) 10 こまい壁塗り (15. 11. 2~5) (15. 11. 7~8) (表15. 11. 9)			17 カ テ ン ウ ォ ー ル 工 事	1 17. 1. 3) (17. 2. 2~6) (17. 3. 2~6) 耐風圧性 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全を確認したものを (17. 1. 3) (17. 2. 2~6) (17. 3. 2~6) 正圧 N/m <sup>2</sup> 以上、負圧 N/m <sup>2</sup> 以上に対して安全なもの 耐 水平方向に対する地震係数 ※1. 0 地震 鉛直方向に対する地震係数 ※0. 5 性能 層間変位追随性 S造 ※1/200以上 R、C、SRC造 ※1/300以上 ・ 水密性 ・ W-4 ・ W-5 ・ 気密性 ・ A-3 ・ A-4 ・ 耐火性 ・ 耐温度差性 ・ 遮音性 ・ T-1 ・ T-2 ・ T-3 ・ T-4 ・ 断熱性 性能の確認方法及び判定方法 ※性能の確認及び判定方法が確認できる適切な資料その他の性能 ・ 図示による 種類 ・ メタルカーテンウォール ・ 金属材料その他の材料 ※図示による ・ P Cカーテンウォール 製作所
11 ロックウール吹付け (15. 12. 2)	ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (15. 12. 2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 仕上げ吹付け厚さ (mm) ・ 図示による ・ 25mm			9 木製建具 (16. 7. 2~4)	11 ロックウール吹付け (15. 12. 2) ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (15. 12. 2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 仕上げ吹付け厚さ (mm) ・ 図示による ・ 25mm			18 工 事	1 18. 1. 7) (18. 2. 2~7) (表18. 2. 1~表18. 2. 7) 種別 (18. 2. 2~7) (表18. 2. 1~表18. 2. 7)
12 アルミニウム 製建具 (16. 2. 2~16. 2. 5)	性能及び構造 (16. 2. 2~16. 2. 5) (表16. 2. 1) (表16. 2. 2) 外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 ○コンクリート系下地及び鉄骨下地 性能項目 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 種別 ○A種 ※S-4 ※A-3 ※W-4 70mm (注) ・ B種 ※S-5 ・ C種 ※S-6 ※A-4 ※W-5 ( mm) (注) 引違い・片引き・上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合は、100mmとする。			10 建具用金物 (16. 8. 1~4)	12 アルミニウム製建具 (16. 2. 2~16. 2. 5) 性能及び構造 (16. 2. 2~16. 2. 5) (表16. 2. 1) (表16. 2. 2) 外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 ○コンクリート系下地及び鉄骨下地 性能項目 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 種別 ○A種 ※S-4 ※A-3 ※W-4 70mm (注) ・ B種 ※S-5 ・ C種 ※S-6 ※A-4 ※W-5 ( mm) (注) 引違い・片引き・上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合は、100mmとする。			19 内 装 工 事	1 19. 2. 2) (19. 3. 2) (19. 3. 3) (19. 5. 4) (19. 5. 5) (19. 7. 2) (19. 9. 3) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (19. 2. 2) (19. 3. 2) (19. 5. 4) (19. 5. 5) (19. 7. 2) (19. 9. 3) 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の ゴム床タイル用接着剤の主成分による区分 ・ 図示による (19. 2. 2) (表19. 2. 2) 下地の施工 標準仕様書19. 2. 3(1) (7)~(9)以外の下地の工法 ・ 図示による (19. 2. 3) 2 ビニル床シート ビニル床タイル (19. 2. 2~3) 種別 記号 色柄 厚さ (mm) 特殊機能 (工 法) ※ 発泡層のないもの ※ FS ※ プレーン ※ 2 ※ 帯電防止 ※ 突付け ・ マーブル ・ 2. 5 ※ 耐動荷重 ※ 熱溶接 ・ 特殊柄 3 ビニル床シート ビニル床タイル (19. 2. 2~3) 種別 色柄 厚さ (mm) 特殊機能 寸法 備考 ・ TT ※ 標準柄 ※ 2 ・ 3 ※ 帯電防止 ※ 図示による ・ FT ※ 特殊柄 ・ 防滑性 ・ KT ・ FOA ※ 標準柄 ・ 4以上 ・ 帯電防止 ※ 図示による ・ FOB ・ 特殊柄 ・ 4未満 ・ 防滑性 4 合成樹脂塗床 (19. 4. 2) (19. 4. 3) 種別 厚さ (mm) 形状、寸法、性能等 ・ 視覚障害者用 床タイル 5 ビニル幅木 (19. 2. 2) 厚さ (mm) 高さ (mm) 種類 色柄 ※ 1. 5以上 ・ ※ 60 ・ 75 ・ 100 ※ 軟質 ・ 硬質 ※ 標準柄 6 ゴム床タイル (19. 2. 2) 種別 厚さ (mm) 形状、寸法、性能等 ・ 単層品 ・ 積層品 7 カーペット敷き (19. 3. 2) (19. 3. 3) 種別 形状 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 色柄 敷き方 ※ 一種 ※ ルーフパイル ※ 500×500 ※ 6. 5 ・ 無地 平場 ※ 市松敷き・模様流し ・ カットパイル ・ ・ 柄物 階段 ・ 市松敷き・模様流し 製造所及び製品名 ・ 織じゅうたん ・ 図示による (19. 3. 2) (表19. 3. 1) ・ タフテッドカーペット ・ 図示による (19. 3. 2) (19. 3. 3) (表19. 3. 2) 8 厚膜型塗床材 (19. 4. 2) (19. 4. 3) (表19. 4. 1~表19. 4. 8) 塗床の種類 仕上げの種類 ・ 弾性ウレタン樹脂系塗床 ※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ ・ エポキシ樹脂系塗床 ・ 薄膜流しのべ工法 ・ 厚膜流しのべ工法 ・ 平滑仕上げ ・ 樹脂モルタル工法 ・ 防滑仕上げ 9 薄膜型塗床材 塗床の種類 仕上げの種類 ※ エポキシ樹脂系塗床 ※ 平滑仕上げ ※ 合成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆
13 ラス系下地 (15. 2. 4) ※図示による。 (15. 2. 4) 14 セッコウボード、 その他のボード下地 (15. 2. 5) 材料 セッコウボード、セッコウラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ セッコウボード 種類 ( ) 厚さ ( mm) セッコウラスボード 種類 ( ) 厚さ ( mm) 木質系セメント板 種類 ( ) 厚さ ( mm) 15 こまい下地 (15. 2. 6) 16 水ずり下地 (15. 2. 7) 材料 木ずり用小幅板の材種 ※杉 (心去り材) 17 モルタル塗り (15. 3. 2~5) 材料 モルタル ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料 ・ 吸水調整材の品質 ※表15. 3. 2による ・ 既製目地材 ・ 使用しない ・ 使用する 形状、寸法 ( ) 18 床目地 ・ 設ける (工法 ※押し目地) ・ 設けない (15. 3. 5) 19 外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない (15. 5. 2) (表15. 5. 1)			18 鋼製建具 (16. 4. 2~6)	19 鋼製軽量建具 (16. 5. 2~6)			20 塗 装 工 事	1 20. 1. 7) (20. 2. 2~7) (表20. 2. 1~表20. 2. 7) 種別 (20. 2. 2~7) (表20. 2. 1~表20. 2. 7)	
14 セッコウボード、 その他のボード下地 (15. 2. 5)	材料 セッコウボード、セッコウラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ セッコウボード 種類 ( ) 厚さ ( mm) セッコウラスボード 種類 ( ) 厚さ ( mm) 木質系セメント板 種類 ( ) 厚さ ( mm)			8 ステンレス製建具 (16. 6. 2~5)	9 木製建具 (16. 7. 2~4)			21 工 事	1 21. 1. 7) (21. 2. 2~7) (表21. 2. 1~表21. 2. 7) 種別 (21. 2. 2~7) (表21. 2. 1~表21. 2. 7)
15 こまい下地 (15. 2. 6)	材料 木ずり用小幅板の材種 ※杉 (心去り材)			9 木製建具 (16. 7. 2~4)	10 建具用金物 (16. 8. 1~4)			22 工 事	1 22. 1. 7) (22. 2. 2~7) (表22. 2. 1~表22. 2. 7) 種別 (22. 2. 2~7) (表22. 2. 1~表22. 2. 7)
16 水ずり下地 (15. 2. 7)	材料 木ずり用小幅板の材種 ※杉 (心去り材)			10 建具用金物 (16. 8. 1~4)	11 鋼製建具 (16. 9. 2~6)			23 工 事	1 23. 1. 7) (23. 2. 2~7) (表23. 2. 1~表23. 2. 7) 種別 (23. 2. 2~7) (表23. 2. 1~表23. 2. 7)
17 モルタル塗り (15. 3. 2~5)	材料 モルタル ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料 ・ 吸水調整材の品質 ※表15. 3. 2による ・ 既製目地材 ・ 使用しない ・ 使用する 形状、寸法 ( ) 24 床目地 ・ 設ける (工法 ※押し目地) ・ 設けない (15. 3. 5) 25 外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない (15. 5. 2) (表15. 5. 1)			11 鋼製建具 (16. 9. 2~6)	12 鋼製軽量建具 (16. 10. 2~6)			24 工 事	1 24. 1. 7) (24. 2. 2~7) (表24. 2. 1~表24. 2. 7) 種別 (24. 2. 2~7) (表24. 2. 1~表24. 2. 7)
18 床目地 ・ 設ける (工法 ※押し目地) ・ 設けない (15. 3. 5)	外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない (15. 5. 2) (表15. 5. 1)			12 鋼製建具 (16. 9. 2~6)	13 鋼製軽量建具 (16. 10. 2~6)			25 工 事	1 25. 1. 7) (25. 2. 2~7) (表25. 2. 1~表25. 2. 7) 種別 (25. 2. 2~7) (表25. 2. 1~表25. 2. 7)
19 外装タイル張り下地等の 下地モルタルの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない (15. 5. 2) (表15. 5. 1)				13 鋼製建具 (16. 9. 2~6)	14 鋼製軽量建具 (16. 10. 2~6)			26 工 事	1 26. 1. 7) (26. 2. 2~7) (表26. 2. 1~表26. 2. 7) 種別 (26. 2. 2~7) (表26. 2. 1~表26. 2. 7)
				14 鋼製建具 (16. 9. 2~6)	15 鋼製軽量建具 (16. 10. 2~6)			27 工 事	1 27. 1. 7) (27. 2. 2~7) (表27. 2. 1~表27. 2. 7) 種別 (27. 2. 2~7) (表27. 2. 1~表27. 2. 7)



Table with 5 columns: Item No., Item Name, Specification, Remarks, and Reference. Includes sections for flooring, wall paper, and ceiling materials.

Table with 5 columns: Item No., Item Name, Specification, Remarks, and Reference. Includes sections for wall coverings, insulation, and partitions.

Table with 5 columns: Item No., Item Name, Specification, Remarks, and Reference. Includes sections for screens, kitchen equipment, chairs, and plumbing.

Table with 5 columns: Item No., Item Name, Specification, Remarks, and Reference. Includes sections for site confirmation, ground improvement, and structural materials.

### 福山市工事区分表

1. 区分は設計図書に明記なき限り、※印のついたものを適用する。  
2. 複数の区分が適用となる場合は、関連工事別に施工する。

分類	項目	区分						分類	項目	区分													
		建	電	給	空	ガ	昇			建	電	給	空	ガ	昇								
1 設備基礎	1. 建物内の機器類の基礎	※						9 ビット・マンホール・水槽等	1. 湧水槽、蓄熱槽等のRC造躯体、断熱層、内外の防水及び仕上げ	※						13 昇降機	1. 昇降路内ピットの防水、集水槽の製作及び設置	※					
	2. 同上アンカーボルト、箱入れ、埋込み設置、架台の製作及び設置	※	※	※	※	※	※		2. 同上マンホール蓋及びタラップの設置	※							2. 昇降路内点検用タラップの製作及び設置	※					
	3. 建物外部の機器類の基礎	※	※	※	※	※	※		3. 防火戸の扉、枠の製作・設置（自動閉鎖装置用切り込み補強共）	※							3. 出入り口三方枠取付け用下地鉄骨の設置（S造に限る）	※					
	4. 同上アンカーボルト、箱入れ、埋込み設置、架台の製作及び設置	※	※	※	※	※	※		4. 同上付属蓋類及びタラップの設置	※							4. 出入り口扉三方枠、畜槽の製作及び設置						※
	5. 外灯基礎の製作及び設置	※							5. 同上内設備配管類の架台の製作及び設置		※	※	※	※			5. 同上枠廻り空隙の充填及び補修	※					
2 設備機器取付下地	1. 設備機器類の取付け用インサート及び吊りボルトの製作及び設置	※	※	※	※	※	※		6. 同上用自動閉鎖装置、運動制御器及び感知器の電気配管配線工事	※							6. 屋内マンホールのRC造躯体、錆蓋及び化粧蓋の設置	※					
	2. 鉄骨造の設備機器類吊り下げ用取付け金物の製作及び設置	※	※	※	※	※	※		7. 可動式防煙壁及び自動降下装置緩衝装置の製作・設置	※							7. 屋外マンホールのRC造躯体、錆蓋の設置	※	※	※	※	※	
	3. 設備機器類の取付け用下地補強	※	※	※	※	※	※		8. 同上用運動制御器、感知器の製作・設置及び電気配管配線工事	※							8. 屋外マンホールの化粧蓋の設置	※					
									9. 電動式排煙窓の開放装置の製作・設置及び二次側電気配管配線工事	※							9. 同上化粧蓋の仕上	※					
									10. 同上一次側電気配管配線工事	※							10. 浄化槽設備のRC造躯体、内外防水及び仕上げ	※	※				
3 躯体貫通	1. 地中梁の連通管、通気管及び人孔の製作、設置及び開口補強	※							11. 電動シャッター、自動ドアなどの制御壁及び二次側電気配管配線工事	※							11. 同上用マンホール蓋及びタラップの設置		※				
	2. 地下室等の二重壁内の水抜き管の製作及び設置	※							12. 同上一次側電気配管配線工事	※							12. FRP製浄化槽等の設置（RC造躯体は除く）		※				
	3. S、SRC造梁貫通鋼管スリーブの製作、設置及び開口補強	※						13. 排水槽、浄化槽等の内外装置の設置				※			13. 排水槽、浄化槽等の内外装置の設置				※				
	4. RC造梁貫通スリーブの製作及び設置	※	※	※	※	※	※	14. 湧水槽、蓄熱槽等用液面電極取付け座の設置			※			※	14. 湧水槽、蓄熱槽等用液面電極取付け座の設置		※					※	
	5. 同上開口補強	※						15. 同上用各種減水警報、液面電極棒取付け			※				15. 同上用各種減水警報、液面電極棒取付け		※						
4 躯体以外の貫通・開口	1. 工場製作の床パネル、間仕切り壁類の開口、取付け枠の製作、設置及び開口補強（下地補強を含む）	※						16. 同上電気配管配線工事			※				16. 同上電気配管配線工事		※						
	2. 現場製作の床、間仕切り壁類、天井の補強を伴う開口及び開口補強（下地補強を含む）	※						1. 屋内、敷地内雨水排水工事（側溝等への放流を含む）	※						1. 自家発電設備用オイルタンク、サービスタンクの製作・設置及び油配管工事				※				
	3. 現場製作の床、間仕切り壁類、天井の補強を伴わない開口	※	※	※	※	※	※	2. 敷地内汚水、雑排水工事			※				2. 同上用防油堤RC造躯体及び仕上げ		※						
	4. 間仕切り壁開口部の空隙充填及び補修	※	※	※	※	※	※	3. 屋内汚水、雑排水工事			※	※			3. 自家発電設備用一次側給排水配管工事				※				
	5. ブロック、れんがへの設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び開口補強	※						4. 下水道本管への接続（汚水・雑排水（雨水を除く））			※				4. 自家発電運転用給排水設備工事			※					
5 点検口・ガラリ	1. 床、壁及び天井の点検口の製作及び設置	※						5. 玄関マット等の排水管	※						5. 機器類付属制御盤の設置及び二次側電気配管配線工事			※	※	※	※		
	2. 外壁ガラリのチャンバーの製作及び設置	※						1. 流し台、ガス台、戸棚及びフードの製作及び設置	※	※					6. 自動制御などの現場盤への電源接続	※							
	3. 内壁等に取りつく吹出口、吸込口の製作及び設置				※			2. 同上給排水管及び排水金物の接続			※				7. 設備用機器、付属制御盤への電源接続及び接地工事	※							
	4. 同上化粧用特殊ガラリの製作及び設置	※			※			3. 同上フードへのダクト接続				※			1. 一般換気扇（壁付型を含む）、全熱交換器の設置				※				
	5. 各室建具ガラリの製作及び設置	※						4. 洗面化粧台の製作及び設置	※						2. 同上用の取付枠の製作及び設置			※					
							5. 同上給排水管接続			※				3. 同上電気配管配線工事（スイッチ含む）	※								
							6. 同上陶製洗面器の設置（一体型を除く）			※				4. ユニットの換気扇の設置			※						
							7. ユニットのバス・ユニットシャワー等の設置	※						5. 同上一次側電気配管配線工事	※								
							8. 同上給排水管接続			※				6. 空調機器のスイッチの設置			※						
							9. 同上ダクト接続			※				7. 同上二次側電気配管工事	※								
							10. 同上一次側電気配管配線	※						8. 同上二次側電気配線工事			※						
							11. オストメイト対応トイレパック（既製品） （汚物流し・シャワー・電気温水器・ライニング含む）			※				9. 同上一次側電気配管配線工事	※								
							12. 同上給排水管接続			※				10. 防火（煙）ダンパーの製作及び設置			※						
							13. 同上一次側電気配管配線	※						11. 同上一次側電気配管配線工事	※								
							14. 電気湯沸器、電気温水器、電磁ヒーターの設置			※				1. 消火栓ボックスの設置			※						
							15. 同上一次側電気配管配線	※						2. 同上起動押釦、表示灯、電話の設置及び電気配管配線工事	※								
							16. 既製化粧鏡の設置	※						3. 消火ポンプ起動制御盤の設置及び二次側電気配管配線工事			※						
							17. 特注化粧鏡の設置	※						4. 同上一次側電気配管配線工事			※						
							18. 大便器等水平区画の耐火区画の製作及び設置			※				5. 排煙窓手動開放装置のリミットスイッチの設置	※								
							19. 手すり	※						6. 同上一次側電気配管配線工事			※						
							20. ベビーシート、ベビーチェア、介助用ベッド	※						7. ガス漏れ警報設備	※					※			
							21. ペーパーホルダー			※													
							22. 洗濯機パン			※													
							23. 同上給排水管接続			※													
							24. 洗面器・衛生陶器の設置及び給排水管接続			※													



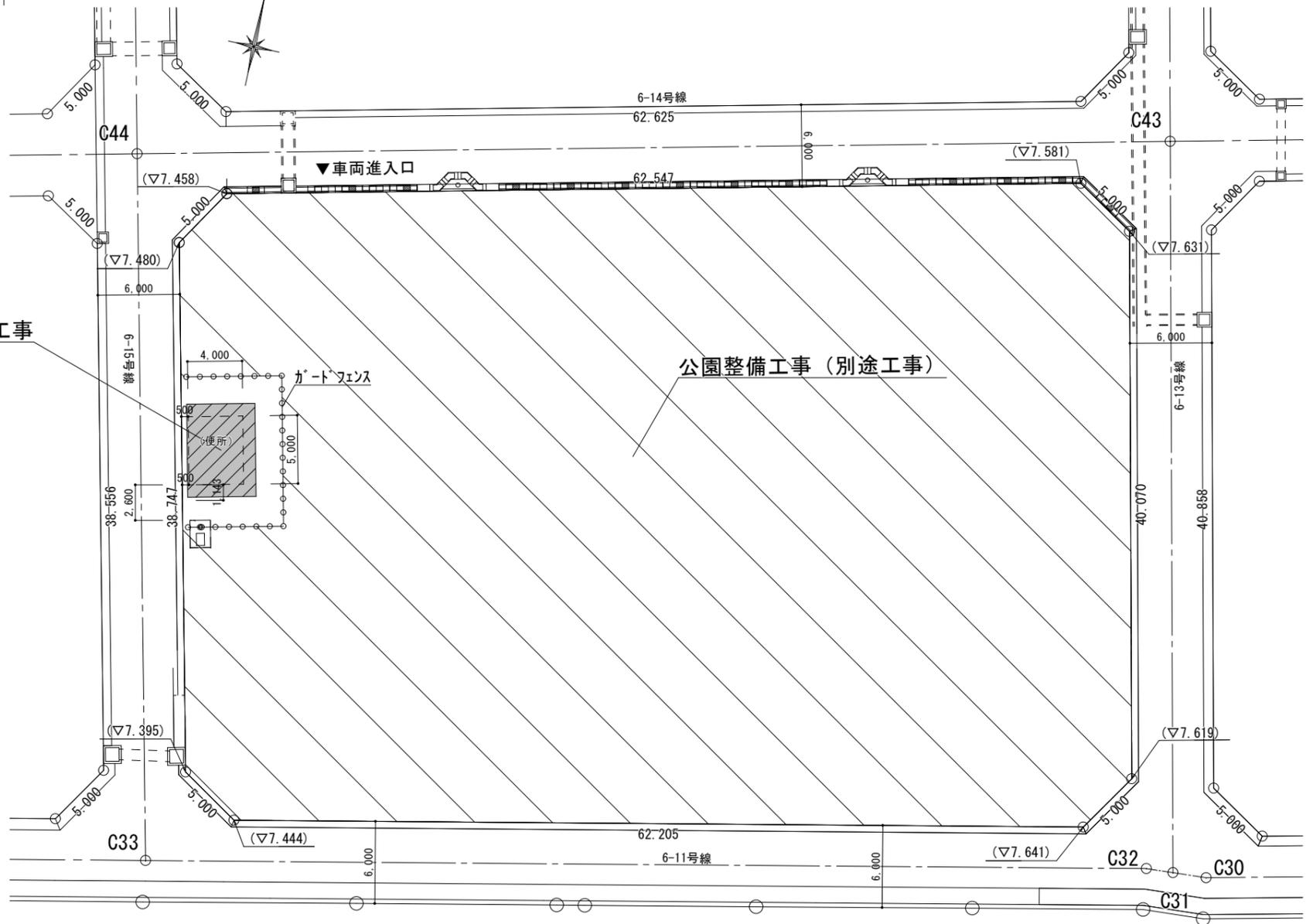
工事場所  
福山市神辺町地内

付近見取図 S=Non Scale



今回新築工事

公園整備工事（別途工事）



配置図 兼 仮設計画図 S=1/400

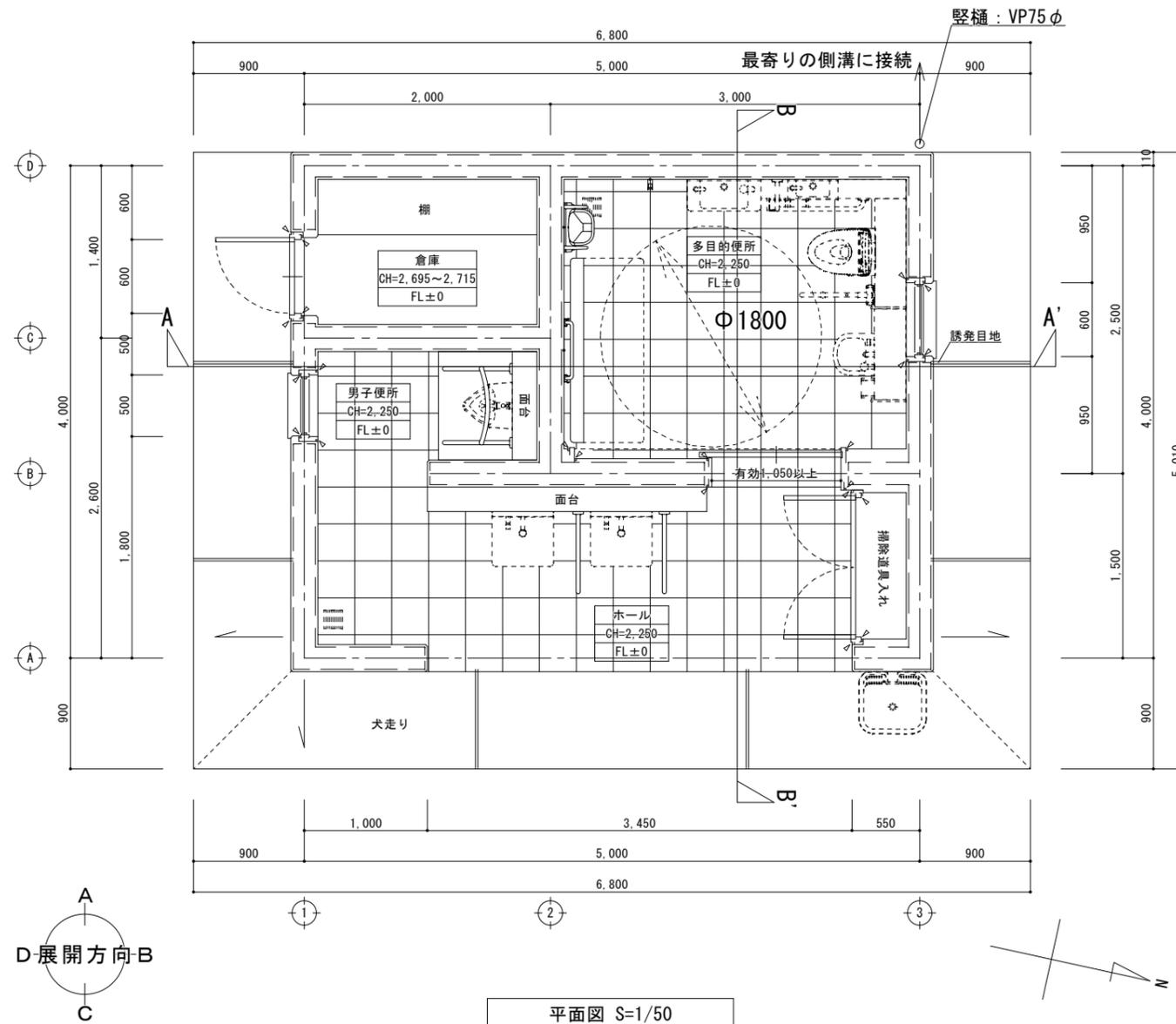
	福山市建設局建築部営繕課	工事名称 (仮称) 川南公園便所新築工事	図面No.
	設計 2025年 9月	図面名称 付近見取図、配置図 兼 仮設計画図	縮尺 S=Non Scale、1/400

内部仕上表

室名	床	壁	天井	備考	別途工事
ホール	モルタル下地 磁器質300角タイル張り	腰壁：磁器質300角タイル張り (FL+1,200まで) コンクリート補修の上、複層塗材E吹付	軽量鉄骨天井下地 耐水石膏ボード (t=12.5) 下地 化粧けい酸カルシウム板 (t=6.0) 張り アルミジョイナー共 廻縁 (金属製) 共	面台 (天板：御影石 t=20) P型手摺 (T112CP31同等品) 天井点検口450角落下防止ワイヤー付き ビレットサイン×2 (FTS150AS同等品、FTS300AC同等品) ※JIS Z8210案内用図記号を使用すること	手洗器×2 床排水
多目的便所	同上	同上	同上	ユニバーサルシート (EWC520ARS同等品) ベビースェア (YKA15S同等品) 荷物フック (YKH22同等品) 天井点検口450角落下防止ワイヤー付き	バリアフリートイレパッキン 床排水 換気用ガリ 換気扇
男子便所	モルタル下地 磁器質300角タイル張り 小便器下部廻り：汚垂石張り	同上	同上	面台 (天板：御影石 t=20) 小便器用手摺 (T112CU22同等品)	小便器
掃除道具入れ	モルタル金コ仕上	コンクリート打放し補修	コンクリート打放し補修	掃除モップ 掛け (UTR422S同等品)	
倉庫	同上	同上	同上	木製棚 (幅1,780×奥行450×高さ1,700)	

外部仕上表

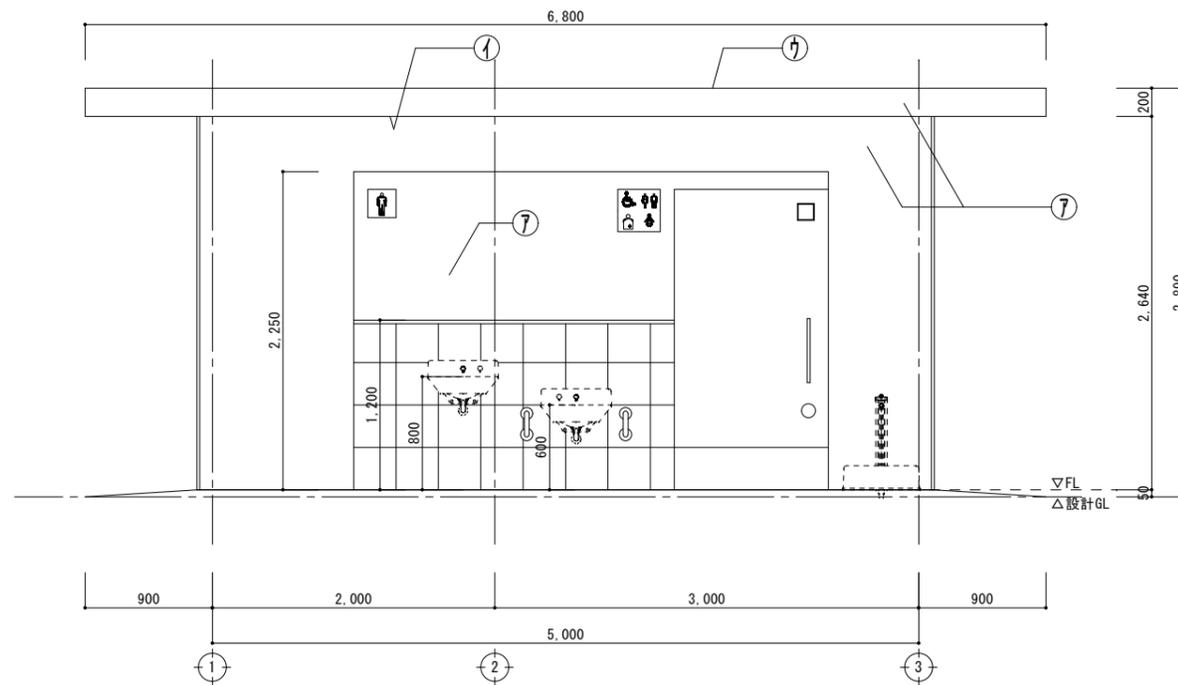
外壁	コンクリート打放し補修の上、複層塗材E吹付
屋根	コンクリート金コ押え 下地処理の上、ウレタン塗膜防水 (X-2) 底端部：SUS製L型押え金物20×50 t=2.0
軒裏	コンクリート打放し補修の上、外装薄塗材E吹付
その他	犬走り：モルタル金コ仕上 軒樋：硬質塩ビ前高200型 ※落葉止め (SUS製) 共 縦樋：VP75φ SUS製掴み金物、化粧カバー共 立水栓 (別途工事)



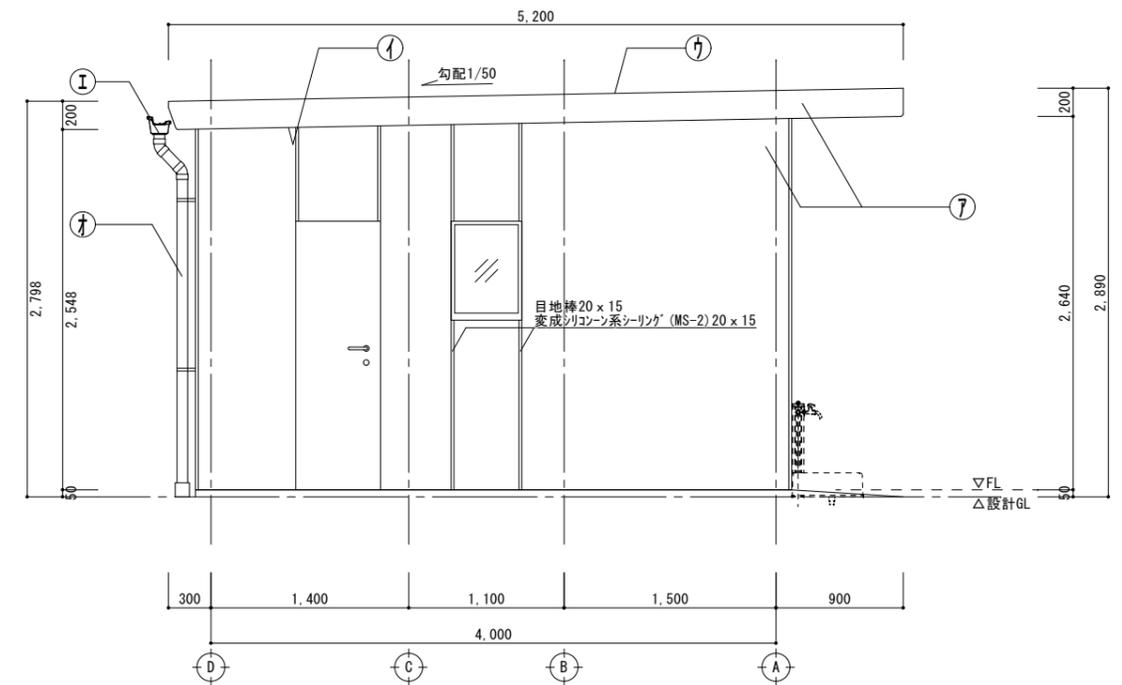
平面図 S=1/50

凡例

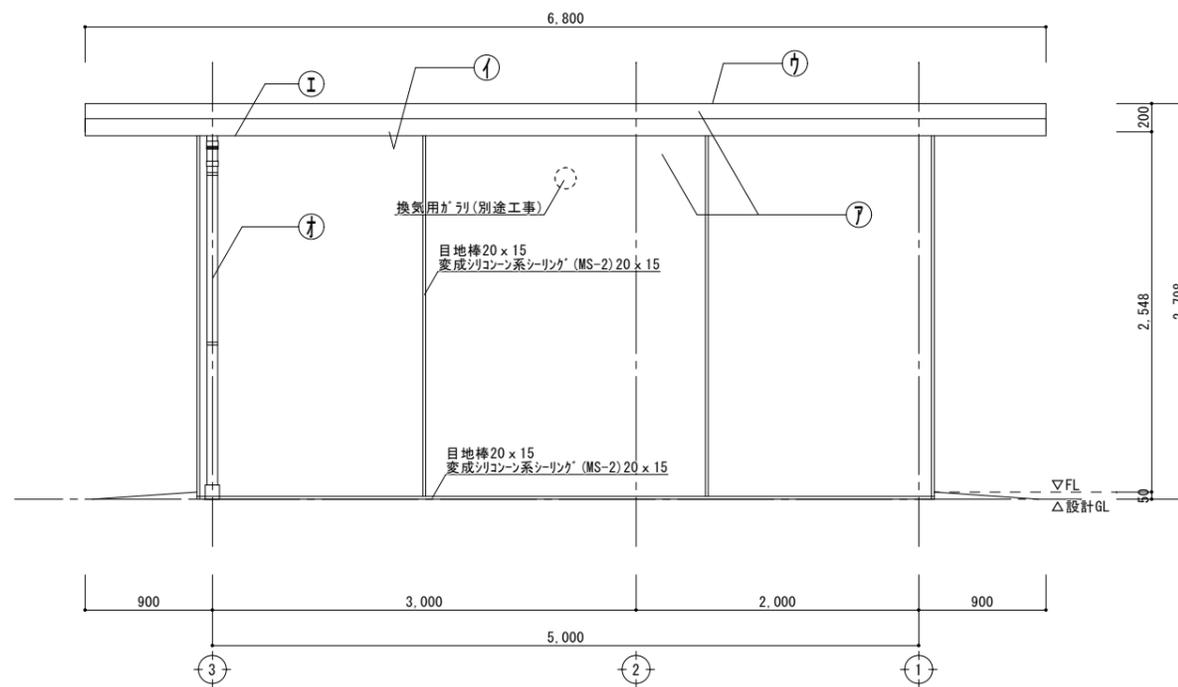
⑦	外壁：複層塗材E吹付
④	軒裏：外装薄塗材E吹付
㊦	屋根：UV塗膜防水(X-2)
①	軒樋：硬質塩ビ前高200型 ※落葉止め(SUS製)共
㊦	縦樋：VP75φ SUS製掴み金物、化粧カバー共



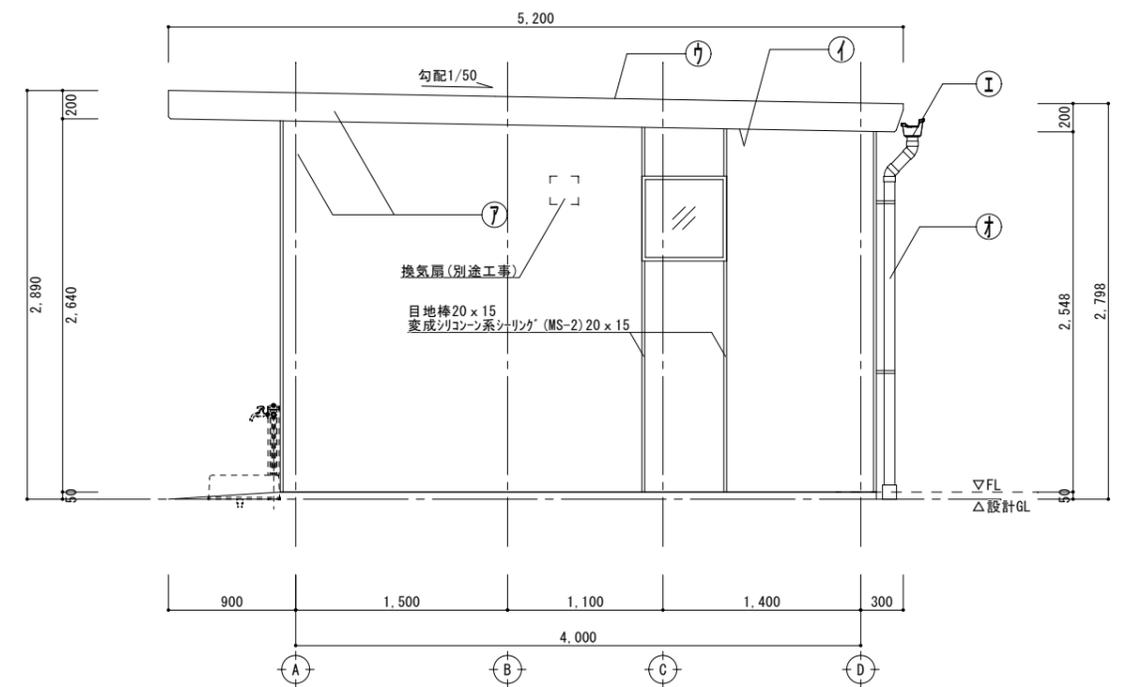
東立面図 S=1/50



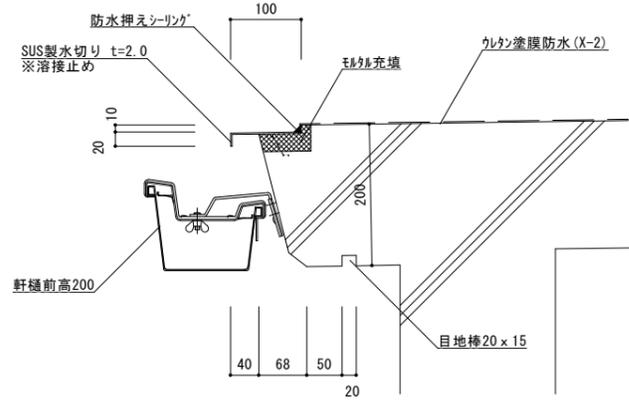
南立面図 S=1/50



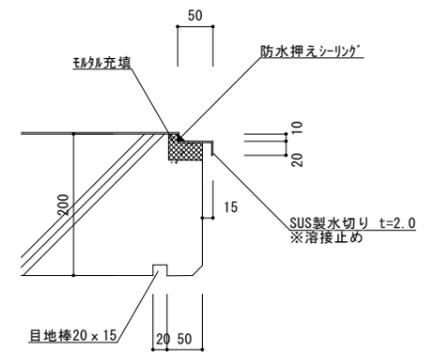
西立面図 S=1/50



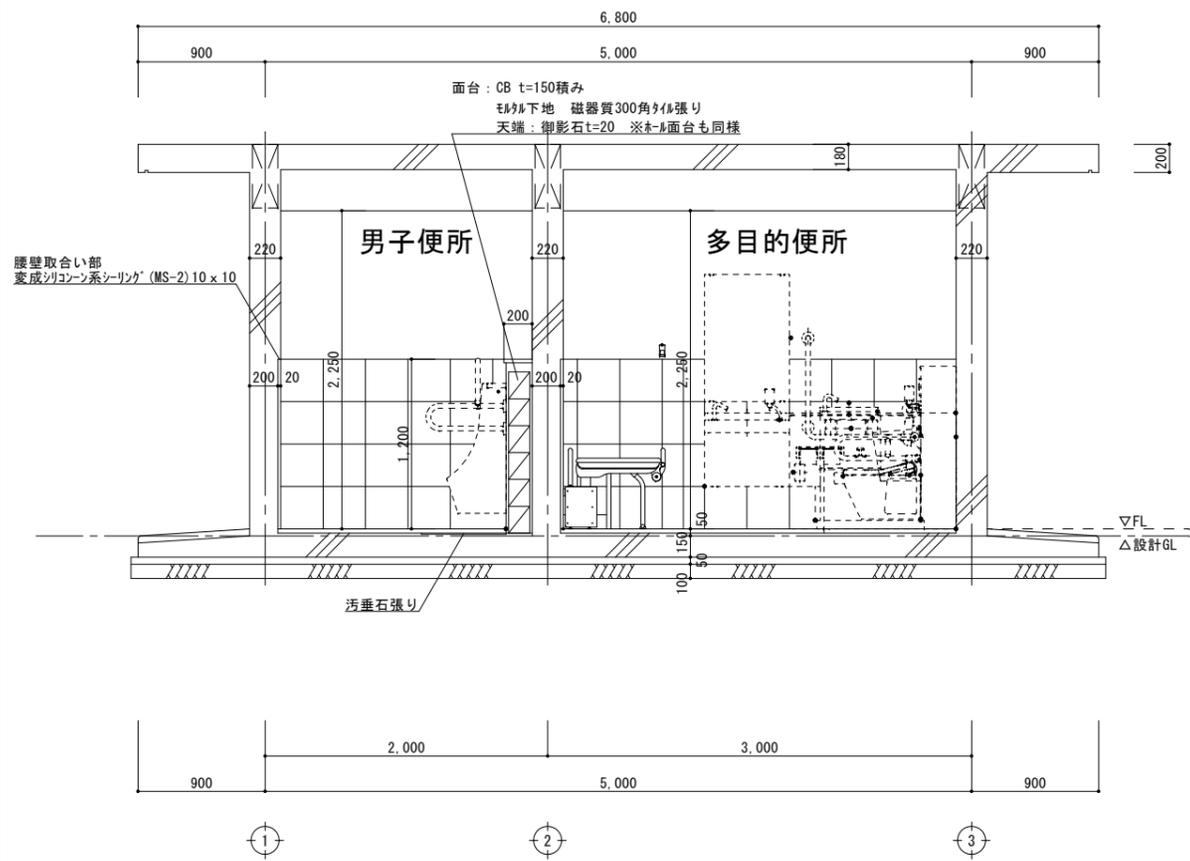
北立面図 S=1/50



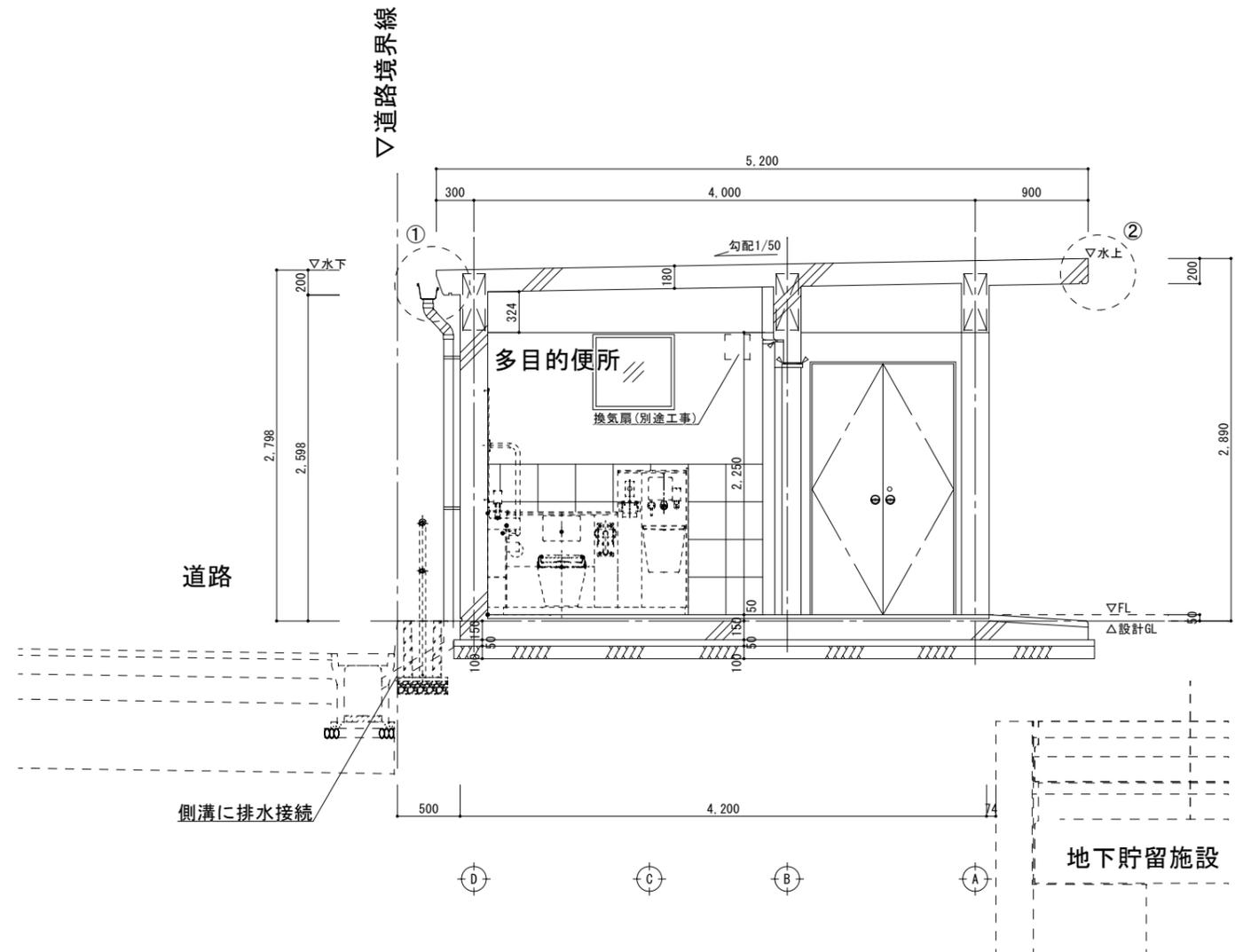
部分詳細図② S=1/10



部分詳細図① S=1/10

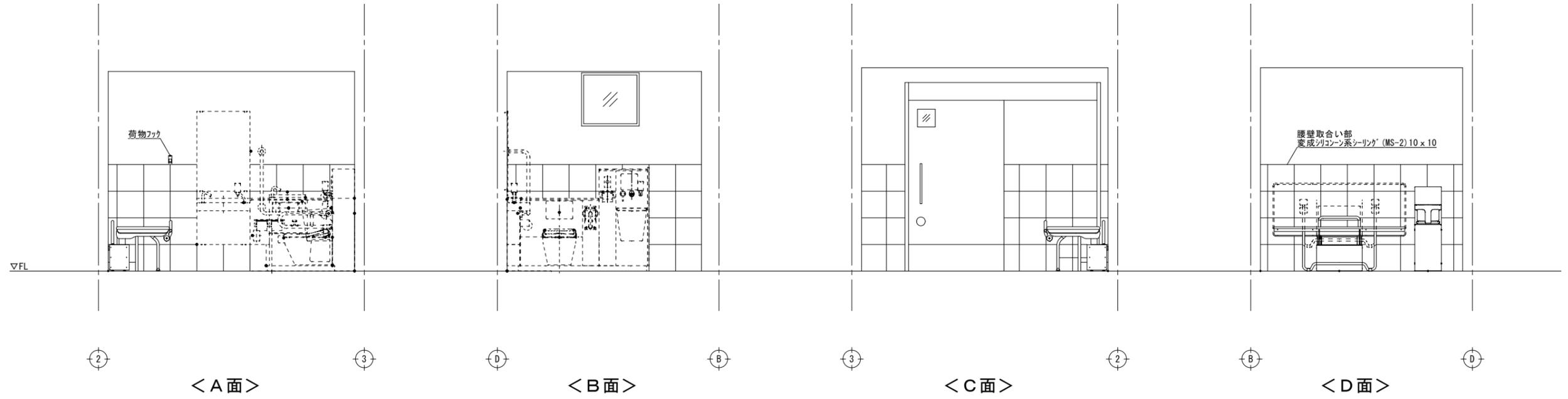


A-A' 断面図 S=1/50

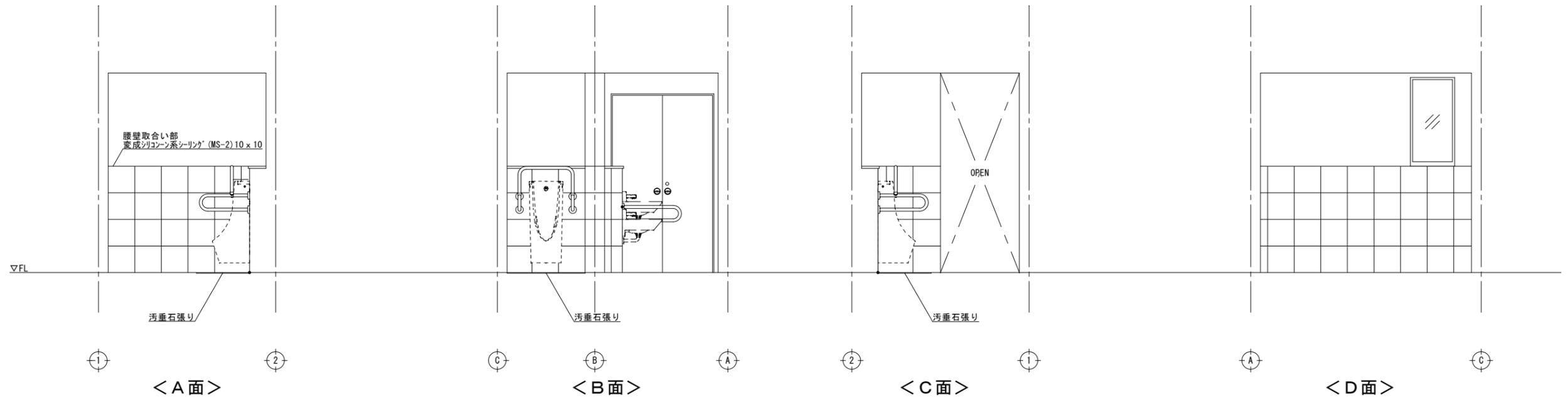


B-B' 断面図 S=1/50

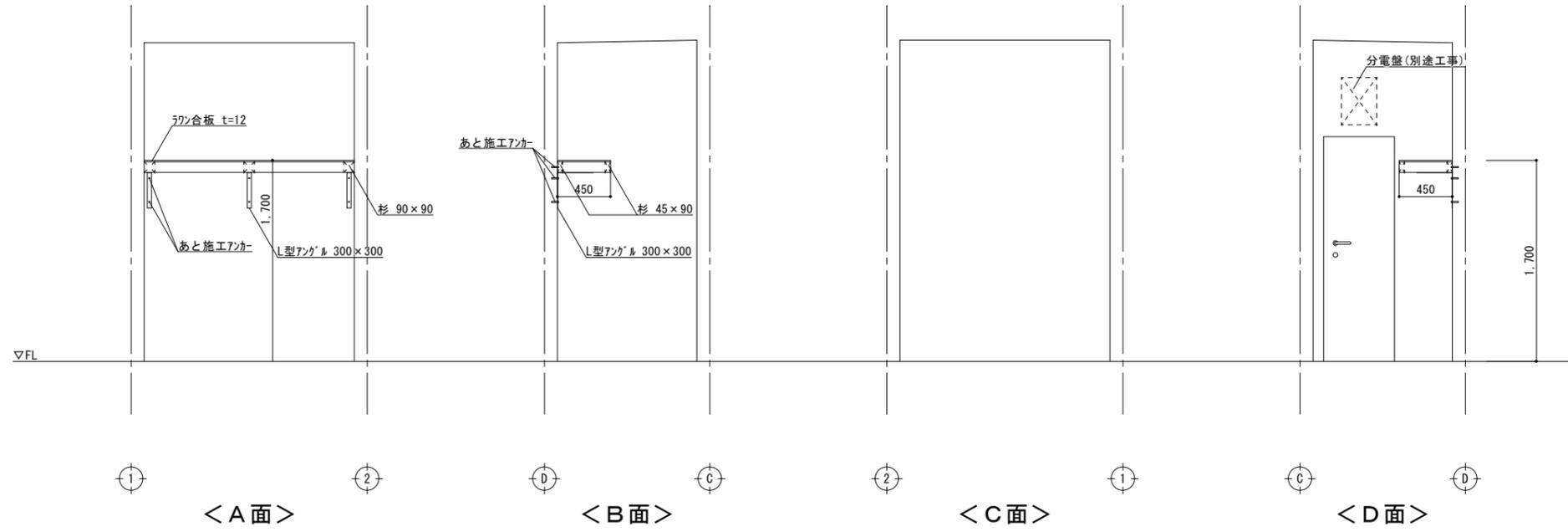
多目的便所



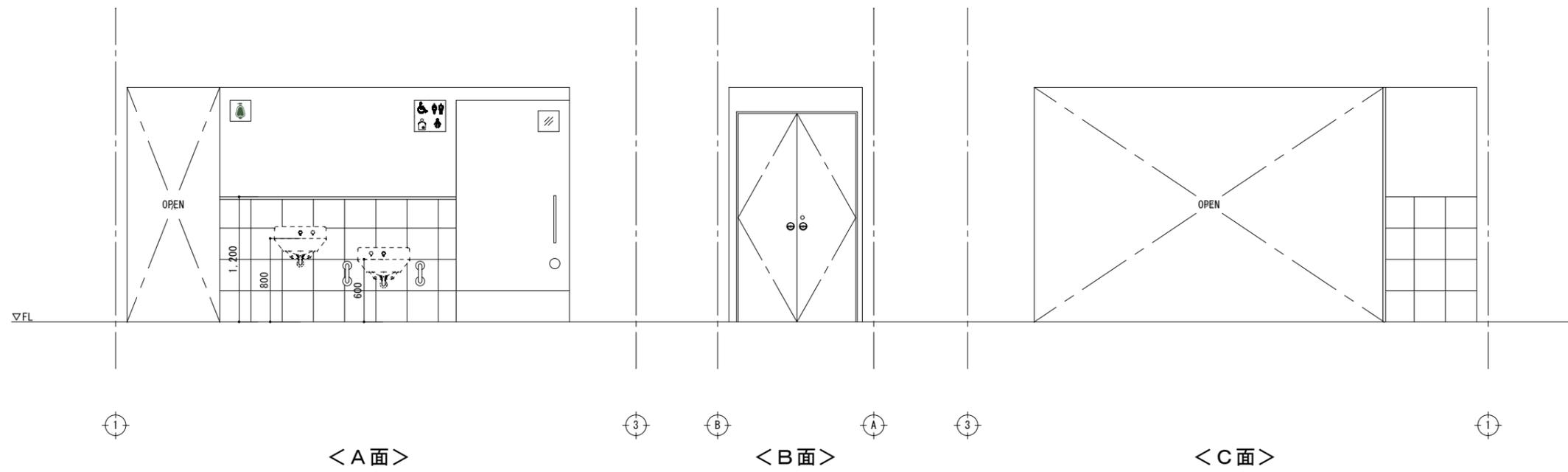
男子便所



倉庫

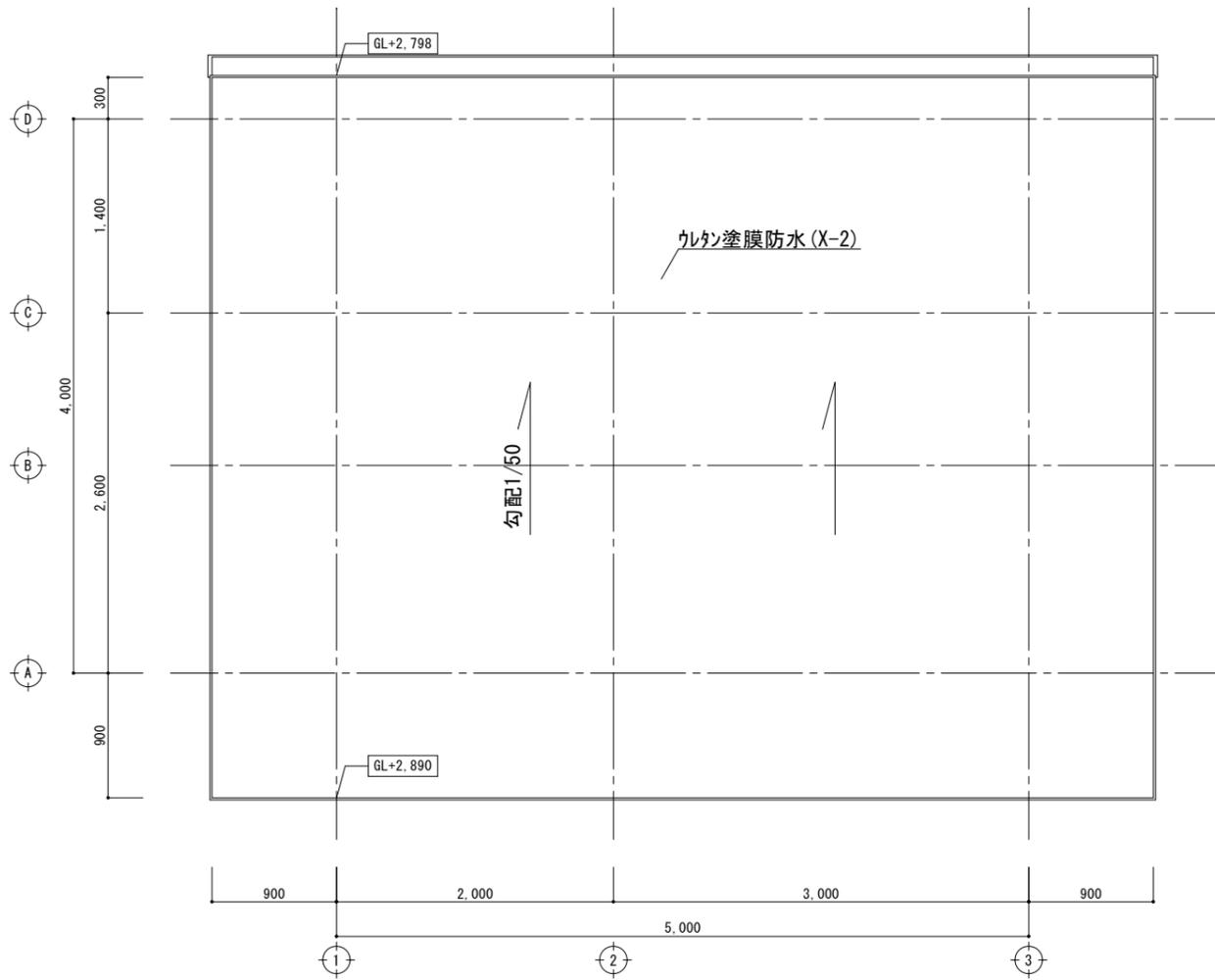


ホール

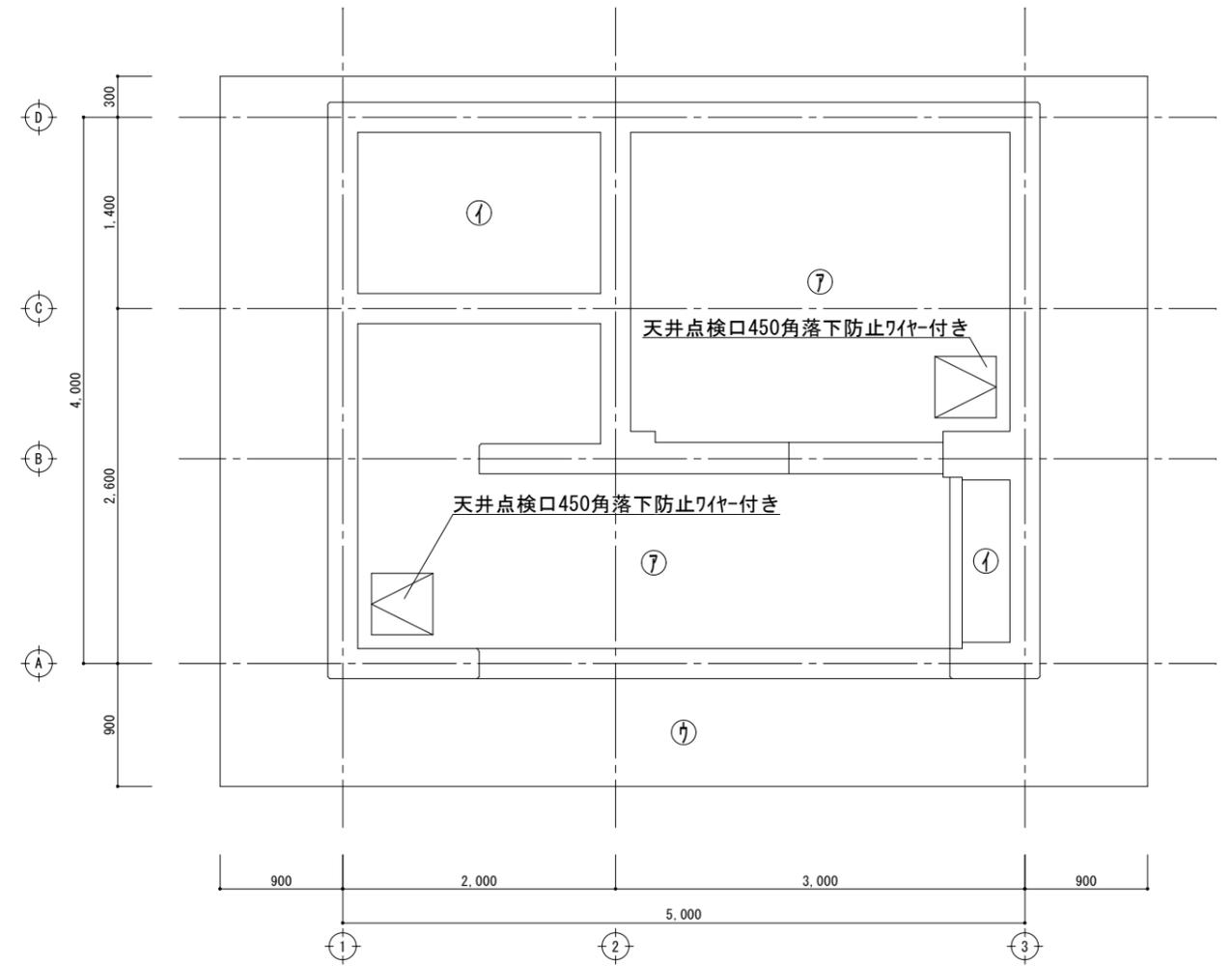


凡例

⑦	軽量鉄骨天井下地 耐水石膏ボード (t=12.5) 下地 化粧けい酸カルシウム板 (t=6.0) 張り アルミジョイナー共 廻縁 (金属製) 共
①	コンクリート打放し補修
②	コンクリート打放し補修の上、外装薄塗材E吹付



屋根伏図 S=1/50

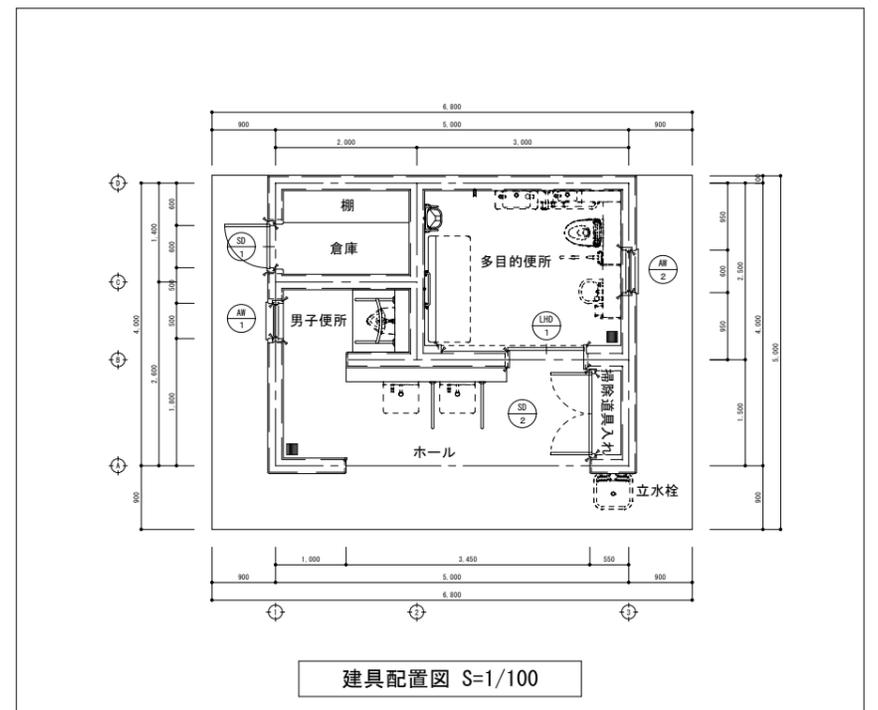


天井伏図 S=1/50

建具表 S=1/40

記号・仕様	AW1 FIX窓	AW2 FIX窓	LHD1 鋼製上吊り片引き戸
姿図			
数量	1	1	1
材質・見込	アルミ製 140	アルミ製 140	鋼板t=1.6 焼付塗装 厚:40、枠:340
硝子	強化硝子(型板) t=4	強化硝子(型板) t=4	型板硝子 t=4
附属金物	標準金物 一式 アルミ水切り	標準金物 一式 アルミ水切り	大型引手、戸当たり、自動閉鎖機構(インドストップ)、下部スレンスガード 大型サムターン表示錠、標準金物 一式(吊り金物含む)
備考			

記号・仕様	SD1 片開き戸	SD2 両開き戸
姿図		
数量	1	1
材質・見込	鋼板t=1.6 焼付塗装 厚:40、枠:100	鋼板t=1.6 焼付塗装 厚:40、枠:100
硝子		
附属金物	SUSハンドル&シリンダ錠、SUS丁番、ドアカギ 標準金物 一式	ケスハンド錠(鍵付き)、SUS丁番、戸当たり 標準金物 一式
備考		



章	項	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項																																																			
4	1	基礎 ※ 直接基礎 ( ・ 地盤改良 ( ・ 表面改良 ・ 柱状改良 ) ) 設計地耐力 KN/m <sup>2</sup> ・ 杭基礎	5	場所打ちコンクリート 杭地業 (4.5.2) 寸法等 (4.5.1~7)	施工管理技術者 ※適用する 寸法等 (4.5.1~7) <table border="1"> <tr> <th>符号</th> <th>軸径 (mm)</th> <th>底径 (mm)</th> <th>杭長 (mm)</th> <th>セツト数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 材料 コンクリートの種類 ・ A種 ※ B種 ・ 評定等の内容による コンクリートの設計基準強度 ( ) N/mm <sup>2</sup> 以上 構造体強度補正值 ・ 3N/mm <sup>2</sup> ・ 構造図による ・ 評定等の内容による セメントの種類 ※高炉セメントB種 スランプ値 ※18cm ・ 鉄筋の種類 ※ 5章鉄筋工事の鉄筋の種類による 鋼管巻きの材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ・ 鋼管径・板厚・長さ ※構造図による 掘削工法 ・ アースドリル工法 (安液液 ※使用する ・ 使用しない) ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 (孔内の水張 ・ 行う ・ 行わない) 併用する工法 ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 ・ SKK00 ・ SKK490 ・ ( ) ・ 掘削工法 (安液液 ※使用する ・ 使用しない) 孔壁測定 ※行う 測定方法 ※超音波測定器 測定場所 ※試験杭 ( ) 箇所及び本杭 ( ) 箇所 ・ 行わない 鉄筋かごの補強 ・ 標準仕様書4.5.4(1)(f)(c)による 鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 100mm ・ 鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ ※構造図による 杭の傾斜 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による	符号	軸径 (mm)	底径 (mm)	杭長 (mm)	セツト数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭							本杭							7	コンクリートの材料 セメント <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th>使用部位</th> </tr> <tr> <td>※普通ポルトランドセメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・高炉セメントA種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・シリカセメントA種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・フライアッシュセメントA種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・高炉セメントB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・フライアッシュセメントB種</td> <td></td> </tr> </table> 混和材料 ※ A E剤、A E減水剤又は高性能A E減水剤 ( J I S A 6204 ) ※ フライアッシュ ( J I S A 6201 ) I 種、II 種若しくはIV種 ※ 高炉スラグ微粉 ( J I S A 6206 ) ※ シリカフェーム ( J I S A 6207 ) 又は膨張材 ( J I S A 6202 )	セメントの種類	使用部位	※普通ポルトランドセメント		・高炉セメントA種		・シリカセメントA種		・フライアッシュセメントA種		・高炉セメントB種		・フライアッシュセメントB種		6	ターンバックル 順の種類 ※ 割付式 ボルトの種類 ※ 羽子板ボルト (7.2.6)																		
	符号	軸径 (mm)		底径 (mm)		杭長 (mm)	セツト数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																					
	試験杭																																																													
	本杭																																																													
セメントの種類	使用部位																																																													
※普通ポルトランドセメント																																																														
・高炉セメントA種																																																														
・シリカセメントA種																																																														
・フライアッシュセメントA種																																																														
・高炉セメントB種																																																														
・フライアッシュセメントB種																																																														
2	試験及び報告書 試験杭 位置、本数及び寸法 ・ 最初の1本 ・ 図示による (4.2.2) 杭の載荷試験 ※ 行わない ・ 図示による (4.2.3) 地盤の載荷試験 ※ 行わない ・ 図示による (4.2.4)	7	デッキプレート (7.2.7)																																																											
3	既製コンクリート杭 地業 施工管理技術者 ※適用する (4.3.2) 種類 (4.3.1~8) ・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 ( P H C 杭 ) ・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭 ( P R C 杭 ) ・ 外設鋼管付きコンクリート杭 ( S C 杭 ) SC杭の鋼管材料 ・ SKK400 ・ SKK490 寸法、継手、性能等 <table border="1"> <tr> <th>符号</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m) 及び種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>継手数</th> <th>本数</th> <th>コンクリート強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td>上杭 中杭 下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td>上杭 中杭 下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 先端部形状 ・ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉そく形 なお、特定埋込杭工法における杭材料は J I S 又は認定条件に適合するものとする ネガティブフリクション対策 ※不要 ・ 要 (構造図による) 杭の継手 ・ アーク溶接継手 ・ 標準仕様書4.3.6による 溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による ・ 機械式継手 (※評定等を受けたもの) 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ・ 切断しない ・ 切断する 処理方法 (切断にともなう補強方法含む) ※構造図による 杭頭の中詰材料 ※コンクリート (基礎コンクリートと同調合) ・ ( ) 施工方法 ・ セメントミルク工法 アースオーガーの支持地盤への掘削深さ ・ 1.5m程度 杭の支持地盤への根入れ深さ ・ 1.0m以上 ・ 特定埋込杭工法 ・ H13国交令1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交令1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 工法 ・ プレポーリング拡大根固め工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 杭周囲定液の使用 ・ する ・ しない 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による	符号	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種類	厚さ (mm)	継手数	本数	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭		上杭 中杭 下杭							本杭		上杭 中杭 下杭							8	柱底均しモルタル 材料 ・ モルタル ・ 無収縮モルタル (表7.2.5) (7.2.9) 工法 ※ A種 ・ B種 (表7.10.2)																																
符号	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種類	厚さ (mm)	継手数	本数	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																						
試験杭		上杭 中杭 下杭																																																												
本杭		上杭 中杭 下杭																																																												
4	鋼杭地業 施工管理技術者 ※適用する (4.4.2) 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 (4.4.1~6) 寸法、継手、性能等 <table border="1"> <tr> <th>符号</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m) 及び種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>継手数</th> <th>本数</th> <th>コンクリート強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td>上杭 中杭 下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td>上杭 中杭 下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交令1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交令1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による 杭の現場継手 ・ 溶接継手 形状 ・ J I S A 5525による 溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による ・ 機械式継手 (※評定等を受けたもの) 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ・ 処理しない ・ 処理する 処理方法 (切断にともなう補強方法含む) ※構造図による 杭頭の中詰材料 ※コンクリート (基礎コンクリートと同調合) ・ ( )	符号	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種類	厚さ (mm)	継手数	本数	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭		上杭 中杭 下杭							本杭		上杭 中杭 下杭							9	溶接部の試験 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.12)(表7.6.2~7.6.3) ※行う ・ 行わない 工場溶接の場合 A O Q L ※ 4.0% ・ 2.5% <table border="1"> <tr> <th>部</th> <th>検査基準</th> <th>※第6水準</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 工事現場溶接の場合 ※ 全ての溶接部 10 錆止め塗装 鉄面 ・ J I S K 5674 工場 回塗り 現場 回塗り (7.8.1~7.8.4) ・ J I S K 5551、5552 工場 回塗り 現場 回塗り (18.7.2) 垂れ滴つき面 ※18章 塗装工事による 耐火被覆材の接着面 ・ 行う ・ 行わない (7.8.2)	部	検査基準	※第6水準				11	耐火被覆 種別及び性能 (7.9.1~7.9.9) <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材料・工法</th> <th>性能 (耐火時間)</th> <th>適用箇所 (部位・部分)</th> </tr> <tr> <td>・耐火材吹付け</td> <td>・乾式吹付けロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火材張り</td> <td>・半乾式吹付けロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火材巻付け</td> <td>・湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火塗料</td> <td>・高耐熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする	種別	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)	・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール			・耐火材張り	・半乾式吹付けロックウール			・耐火材巻付け	・湿式ロックウール			・耐火塗料	・高耐熱ロックウール			・ラス張りモルタル塗り	・		
符号	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種類	厚さ (mm)	継手数	本数	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																						
試験杭		上杭 中杭 下杭																																																												
本杭		上杭 中杭 下杭																																																												
部	検査基準	※第6水準																																																												
種別	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)																																																											
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール																																																													
・耐火材張り	・半乾式吹付けロックウール																																																													
・耐火材巻付け	・湿式ロックウール																																																													
・耐火塗料	・高耐熱ロックウール																																																													
・ラス張りモルタル塗り	・																																																													
5	① 基礎 ※ 直接基礎 ( ・ 地盤改良 ( ・ 表面改良 ・ 柱状改良 ) ) 設計地耐力 KN/m <sup>2</sup> ・ 杭基礎	6	コンクリートの強度 ※普通コンクリート (6.2.2)(6.2.4)(表6.2.2) <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 Fc (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>※ 21</td> <td>18</td> <td>上部躯体</td> </tr> <tr> <td>※ 21</td> <td>15</td> <td>基礎</td> </tr> </table> ※ 軽量コンクリート (6.10.1~6.10.4) <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 Fc (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>種類</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 1種 ・ 2種</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 層根床版のスランプは15cmとする。 ② コンクリートの種類 ※ I 類 ・ II 類 (6.2.1)(表6.2.1) ③ 水セメント比 ○ 65% ・ % (6.3.2) ④ コンクリート中の塩化物量 ※ 0.30kg/m <sup>3</sup> 以下 (6.3.2) ⑤ コンクリートのアルカリ総量 ・ アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、コンクリート中の総アルカリ量を3.0kg/m <sup>3</sup> 以下とする。(6.5.4) ⑥ コンクリートの仕上げ 打放し仕上げの種類 (6.2.5)(表6.2.3) ※ 合板せき板を使用する場合 <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>せき板の種類</th> <th>表面・せき板の程度</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ A種</td> <td>J A S (表面加工品)</td> <td>表6.2.4</td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>※ B種</td> <td>J A S B-C</td> <td>表6.2.4</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ C種</td> <td>J A S B-C</td> <td>表6.2.4</td> <td>・</td> </tr> </table>	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ (cm)	適用箇所	※ 21	18	上部躯体	※ 21	15	基礎	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	種類	スランプ (cm)	適用箇所		・ 1種 ・ 2種			種別	せき板の種類	表面・せき板の程度	適用箇所	・ A種	J A S (表面加工品)	表6.2.4	※ 図示	※ B種	J A S B-C	表6.2.4	・	・ C種	J A S B-C	表6.2.4	・	7	鉄骨工場の加工能力 <table border="1"> <tr> <th>製作工場の加工能力</th> <th>使用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ SS 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ SSC 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ STK 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ※ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> </table> J I S規格品以外の場合 ※ 試験を行う ・ 試験を行わない 3 高力ボルト ・ トルシア形高力ボルト (セツトの種類 ※ 2種 (S10T) ・ ) (7.2.2) ・ J I S形高力ボルト (セツトの種類 ※ 2種 (F10T) ・ ) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (セツトの種類 ※ 1種 (F8T相当) ・ ) ボルト径 ※ 図示による 4 普通ボルト ボルト及びナットの種類等 ※ 表7.2.3による (7.2.3) ボルト径 ※ 図示による 5 アンカーボルトの材質及び設置 材質 構造用アンカーボルト ・ ABR400 ・ ABR490 ・ ABR520SUS (7.2.4)(7.10.3) 建方用アンカーボルト ・ SS400 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状・寸法 (表7.10.1) ※ 図示による 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ・ A種 ※ B種 ・ その他	製作工場の加工能力	使用箇所	・ SS 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外		・ SSC 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外		・ STK 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外		・ ※ J I S規格品以外															
設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ (cm)	適用箇所																																																												
※ 21	18	上部躯体																																																												
※ 21	15	基礎																																																												
設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	種類	スランプ (cm)	適用箇所																																																											
	・ 1種 ・ 2種																																																													
種別	せき板の種類	表面・せき板の程度	適用箇所																																																											
・ A種	J A S (表面加工品)	表6.2.4	※ 図示																																																											
※ B種	J A S B-C	表6.2.4	・																																																											
・ C種	J A S B-C	表6.2.4	・																																																											
製作工場の加工能力	使用箇所																																																													
・ SS 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外																																																														
・ SSC 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外																																																														
・ STK 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外																																																														
・ ※ J I S規格品以外																																																														
6	① 基礎 ※ 直接基礎 ( ・ 地盤改良 ( ・ 表面改良 ・ 柱状改良 ) ) 設計地耐力 KN/m <sup>2</sup> ・ 杭基礎	7	鉄骨工場の加工能力 <table border="1"> <tr> <th>製作工場の加工能力</th> <th>使用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ SS 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ SSC 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ STK 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ※ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> </table> J I S規格品以外の場合 ※ 試験を行う ・ 試験を行わない 3 高力ボルト ・ トルシア形高力ボルト (セツトの種類 ※ 2種 (S10T) ・ ) (7.2.2) ・ J I S形高力ボルト (セツトの種類 ※ 2種 (F10T) ・ ) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (セツトの種類 ※ 1種 (F8T相当) ・ ) ボルト径 ※ 図示による 4 普通ボルト ボルト及びナットの種類等 ※ 表7.2.3による (7.2.3) ボルト径 ※ 図示による 5 アンカーボルトの材質及び設置 材質 構造用アンカーボルト ・ ABR400 ・ ABR490 ・ ABR520SUS (7.2.4)(7.10.3) 建方用アンカーボルト ・ SS400 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状・寸法 (表7.10.1) ※ 図示による 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ・ A種 ※ B種 ・ その他	製作工場の加工能力	使用箇所	・ SS 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外		・ SSC 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外		・ STK 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外		・ ※ J I S規格品以外		8	鉄骨工場の加工能力 <table border="1"> <tr> <th>製作工場の加工能力</th> <th>使用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ SS 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ SSC 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ STK 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ※ J I S規格品以外</td> <td></td> </tr> </table> J I S規格品以外の場合 ※ 試験を行う ・ 試験を行わない 3 高力ボルト ・ トルシア形高力ボルト (セツトの種類 ※ 2種 (S10T) ・ ) (7.2.2) ・ J I S形高力ボルト (セツトの種類 ※ 2種 (F10T) ・ ) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (セツトの種類 ※ 1種 (F8T相当) ・ ) ボルト径 ※ 図示による 4 普通ボルト ボルト及びナットの種類等 ※ 表7.2.3による (7.2.3) ボルト径 ※ 図示による 5 アンカーボルトの材質及び設置 材質 構造用アンカーボルト ・ ABR400 ・ ABR490 ・ ABR520SUS (7.2.4)(7.10.3) 建方用アンカーボルト ・ SS400 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状・寸法 (表7.10.1) ※ 図示による 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ・ A種 ※ B種 ・ その他	製作工場の加工能力	使用箇所	・ SS 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外		・ SSC 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外		・ STK 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外		・ ※ J I S規格品以外																																						
製作工場の加工能力	使用箇所																																																													
・ SS 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外																																																														
・ SSC 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外																																																														
・ STK 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外																																																														
・ ※ J I S規格品以外																																																														
製作工場の加工能力	使用箇所																																																													
・ SS 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外																																																														
・ SSC 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外																																																														
・ STK 400 ※ J I S規格品 ・ J I S規格品以外																																																														
・ ※ J I S規格品以外																																																														

# 鉄筋工事仕様書 No. 1

この仕様書は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）5章鉄筋工事により作成する。この仕様書及び図面に明示なき場合は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）5章鉄筋工事による。

## 鉄筋の折曲げ基準

鉄筋の折曲げ形状及び寸法					
折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)			
		SD295, SD345	SD390		
		D16以下	D19~D38	D19~D38	
180°					
135°					
90°					
135°及び90°					
折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)			
		SD295, SD345, SD390			
		D16以下	D19~D25	D25~D38	
90°未満					

(注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

### 異形鉄筋のフック

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にフックを付ける。  
 7) 柱の四隅にある主筋の重ね継手（下図(a)の●印で示す鉄筋）  
 4) 最上階の柱の四隅にある主筋の柱頭定着（下図(a)の●印で示す鉄筋）  
 4) 梁の出隅及び下端の両隅にある梁主筋の重ね継手（基礎梁を除く。）（下図(b)の●印で示す鉄筋）  
 1) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む。）  
 1) 杭基礎のベース筋  
 1) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

## 鉄筋の継手及び定着

- 鉄筋の継手
 

鉄筋の重ね継手は、次による。  
 原則として、D35以上の異形鉄筋については、重ね継手を用いない。  
 なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。  
 7) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。  
 特記がなければ、耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40d（軽量コンクリートの場合は50d）又は下表の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。  
 4) 7) 以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。

鉄筋の重ね継手の長さ				
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 $F_c$ (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub> (フックなし)		
		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>1n</sub> (フックなし)
SD295	18	45d	35d	
	21	40d	30d	
	24, 27	35d	25d	
SD345	18	50d	35d	
	21	45d	30d	
	24, 27	40d	30d	
SD390	18	50d	35d	
	21	45d	30d	
	24, 27	40d	30d	

(注) 1. L<sub>1</sub>, L<sub>1n</sub>: 重ね継手の長さ及びフックありの重ね継手の長さ  
2. L<sub>2</sub>, L<sub>2n</sub>: 割裂環境のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ  
3. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。

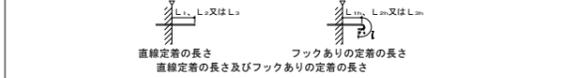


## 鉄筋の定着

7) 鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、下表による。

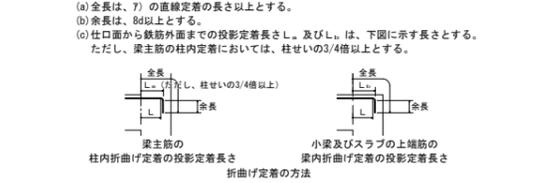
鉄筋の定着の長さ							
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 $F_c$ (N/mm <sup>2</sup> )	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ	
		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>1n</sub>	L <sub>2n</sub>	L <sub>1n</sub>	L <sub>2n</sub>
SD295	18	45d	40d	35d	30d		
	21	40d	35d	30d	25d		
	24, 27	35d	30d	25d	20d		
SD345	18	50d	40d	35d	30d		
	21	45d	35d	30d	25d		
	24, 27	40d	35d	30d	25d		
SD390	18	50d	40d	35d	30d		
	21	45d	35d	30d	25d		
	24, 27	40d	35d	30d	25d		

(注) 1. L<sub>1</sub>, L<sub>1n</sub>: 2から4まで以外の直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ  
2. L<sub>2</sub>, L<sub>2n</sub>: 割裂環境のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ  
3. L<sub>1</sub>: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁を除く。  
4. L<sub>2n</sub>: 小梁の下端筋のフックありの定着の長さ。  
5. フックありの定着の場合は、下図に示すようにフック部分1を含む。また、中間部での折曲げは行わない。  
6. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。



- 定着の方法
 

仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さsが、フックありの定着の長さsを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、特記による。特記がなければ、下図により、下記の条件を全て満足するものとする。  
 (a) 全長は、7) の直線定着の長さs以上とする。  
 (b) 余長は、8d以上とする。  
 (c) 柱口から鉄筋外面までの投影定着長さs<sub>1</sub>及びs<sub>2</sub>は、下図に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。

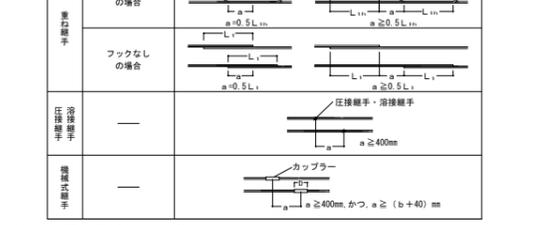


## 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 $F_c$ (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	
		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
SD390	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d

(注) 1. L<sub>1</sub>: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。）  
2. L<sub>2</sub>: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持小梁及び片持スラブを除く。）  
3. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。

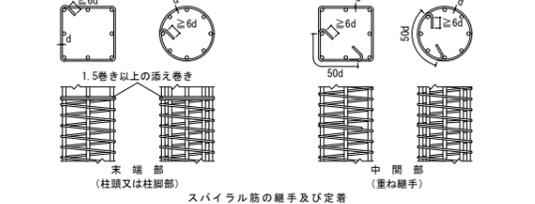
## 隣り合う継手の位置



## 溶接金網の継手及び定着



## スパイラル筋の継手及び定着



## 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

- 鉄筋（溶接金網含む）の最小かぶり厚さ（mm）  
柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

構造部分	種別	最小かぶり厚さ（mm）	
		スラブ、耐力壁以外の壁	柱、梁、耐力壁
土に接しない部分	屋内	20	30
	屋外	30	30
	土に接する部分	40	40
煙突等高温を受ける部分	柱、梁、スラブ、壁	40	40
	基礎、構架、耐力スラブ	60	60

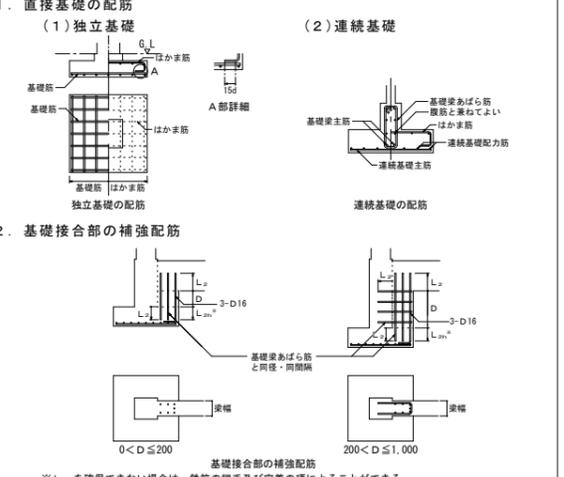
(注) 1. 普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。  
2. 「仕上げあり」は、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。  
3. スラブ、梁、基礎及び煙突で、直接土に接する部分のかぶり厚さは、捨てコンクリートの厚さを含まない。  
4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

## 鉄筋相互のあき

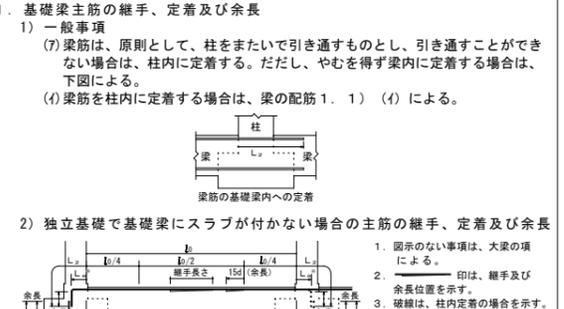
- 次の値のうち最大のもの以上とする。  
(7) 粗骨材の最大寸法の1.25倍  
(4) 25mm  
(4) 隣り合う鉄筋の径の平均の1.5倍
- 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきも、同様とする。
- 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

丸鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	28φ	32φ
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D28	D32
記号	●	×	○	●	○	○	○	○

## 基礎の配筋



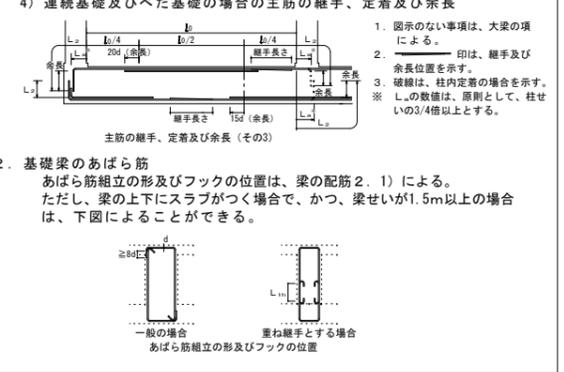
## 基礎梁の配筋



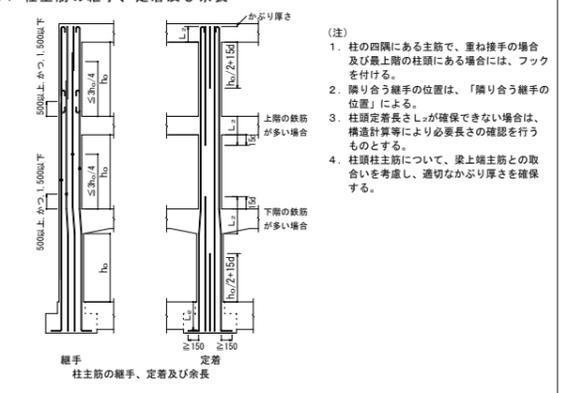
## 柱の打ち増し補強



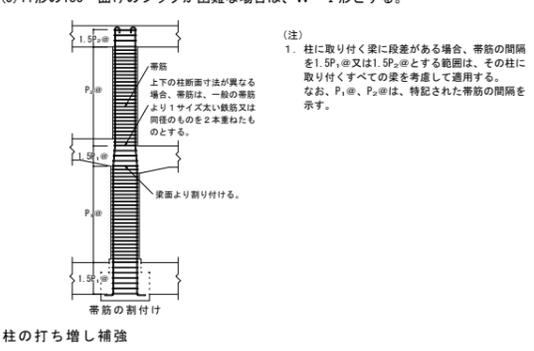
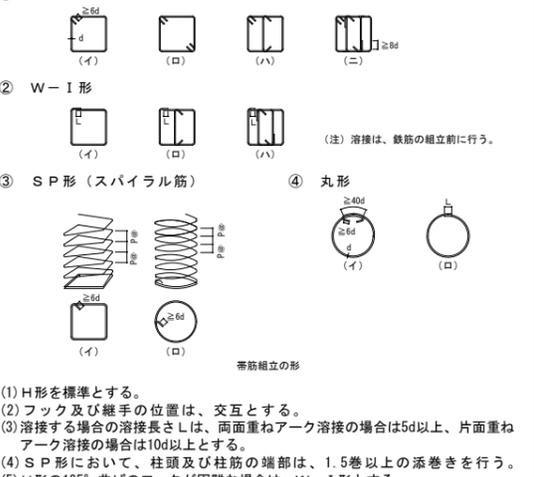
## 梁の配筋



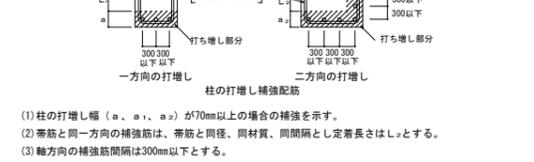
## 柱の配筋



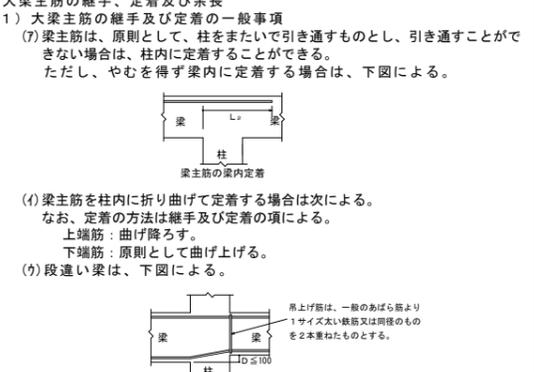
## 帯筋組立の形及び割付け



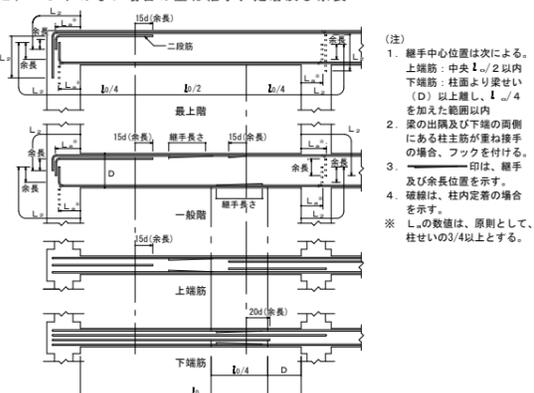
## 鉄筋の配筋



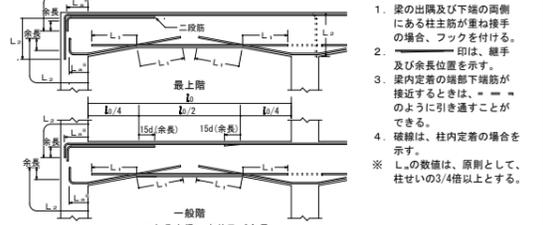
## 鉄筋の配筋



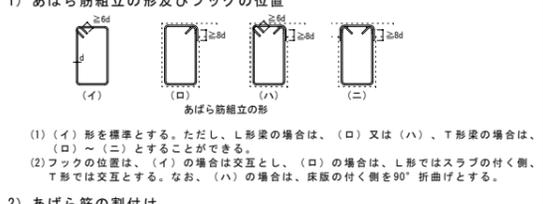
## 鉄筋の配筋



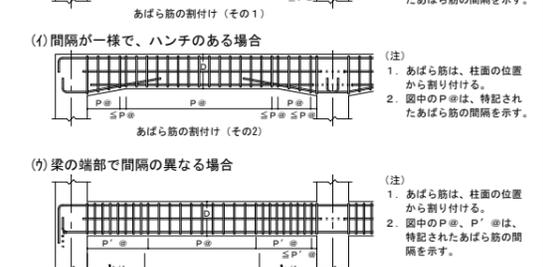
## ハンチのある場合の定着及び余長



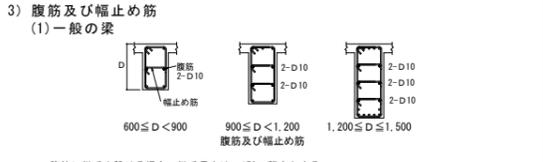
## あばら筋（小梁、片持ち梁、基礎梁含む）の組立の形及び割付け



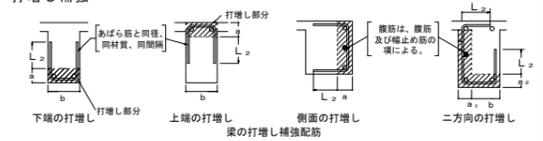
## あばら筋の割付け



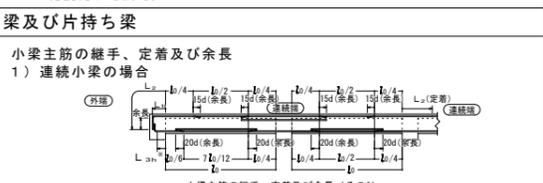
## 腹筋及び幅止め筋



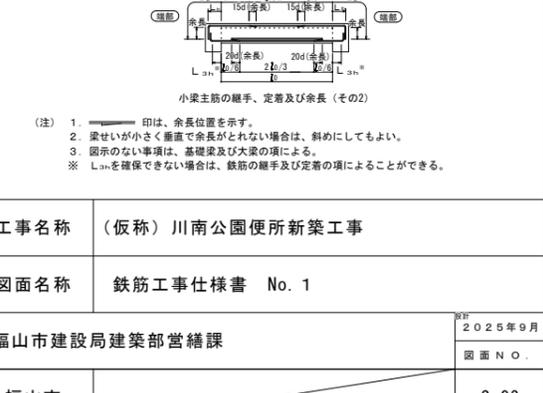
## 打ち増し補強



## 小梁及び片持ち梁



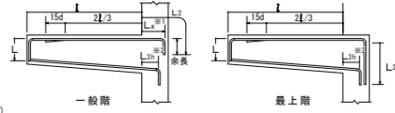
## 鉄筋の配筋



鉄筋工事仕様書 No. 2

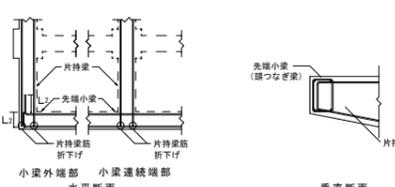
2. 片持梁主筋の定着及び余長

1) 先端に小梁のない場合



- Notes regarding reinforcement placement and lap lengths.

2) 先端に小梁がある場合



- Notes regarding reinforcement placement and lap lengths.

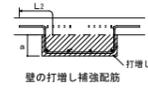
2) 壁開口部補強筋の定着長さは、下図による。



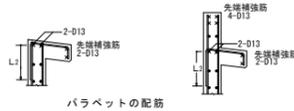
3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることで開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

5. 壁の打増し補強配筋

壁の打増し厚さ (a) が50mm以上の場合の補強を示す



6. バラベットの配筋



スラブの配筋

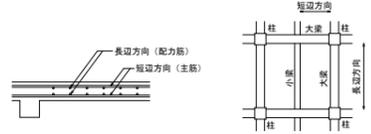
1. スラブの基準配筋

1) スラブの基準配筋

スラブの基準配筋

Table with columns: 配筋種類, 短辺方向(主筋) 全域, 長辺方向(配筋) 全域, 配筋種類, 短辺方向(主筋) 全域, 長辺方向(配筋) 全域. Lists standard reinforcement types S1 through S14.

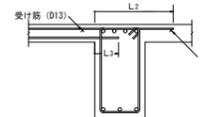
(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。



スラブの配筋

- Notes regarding reinforcement placement and lap lengths.

2. スラブ筋の定着及び受け筋



3. 片持ちスラブの基準配筋

1) 片持ちスラブの基準配筋

片持ちスラブの基準配筋

Table with columns: 配筋種類, 主筋, 配筋種類, 主筋. Lists standard reinforcement types CS1 through CS7 for cantilever slabs.

(注) 1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

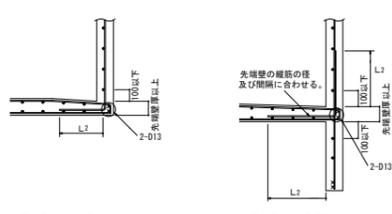


片持ちスラブの配筋 (CS1からCS5)



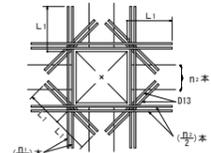
片持ちスラブの配筋 (CS6及びCS7)

4. 先端に壁が付く場合の配筋は、下図による。



5. スラブ開口部の補強 (スラブ開口の最大径が700mm以下の場合に限る。)

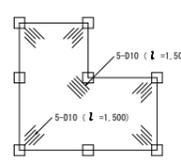
- 1) スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (l=2L1) シングルを上下筋の内側に配筋する。



スラブ開口部の補強配筋

6. 出隅部及び入隅部の補強

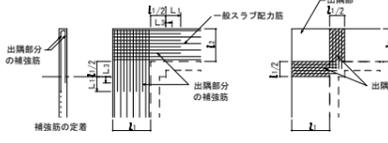
1) 屋根スラブの出隅部及び入隅部



補強筋を上端筋の下側に配置する。

出隅部及び入隅部の補強配筋

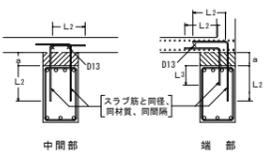
2) 片持ちスラブの出隅部



- Notes regarding reinforcement placement and lap lengths.

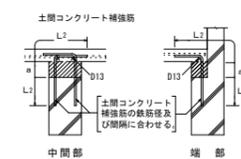
7. スラブの打継ぎ補強等

1) 土間スラブの打継ぎ補強



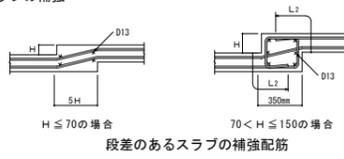
(注) 基礎梁と土間スラブを一体打ちとし、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



- Notes regarding reinforcement placement and lap lengths.

8. 段差のあるスラブの補強



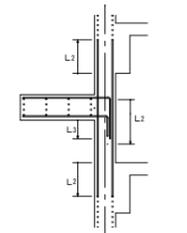
150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

階段の配筋

1. 片持ちスラブ形階段

片持ちスラブ形階段の基準配筋は、下表及び下図により、寸法及び配筋種別は、特記による。

Table with columns: 配筋種別, KA 1, KA 2, KA 3, KA 4. Lists standard reinforcement types for cantilever slab stairs.

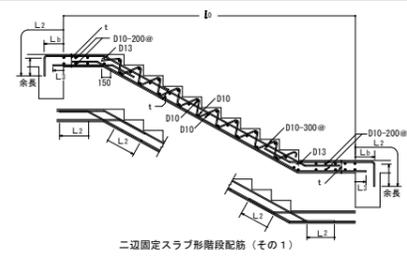


片持ちスラブ形階段配筋の定着

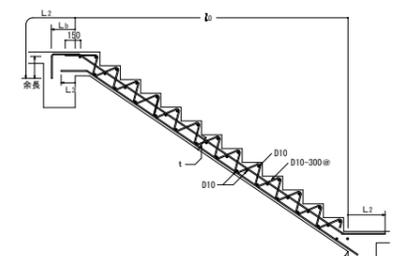
2. 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋

Table with columns: 配筋種別, 上端筋、下端筋とも(全域), 配筋種別, 上端筋、下端筋とも(全域). Lists standard reinforcement types for fixed slab stairs.



二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)

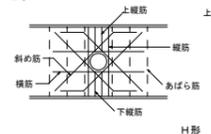


二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

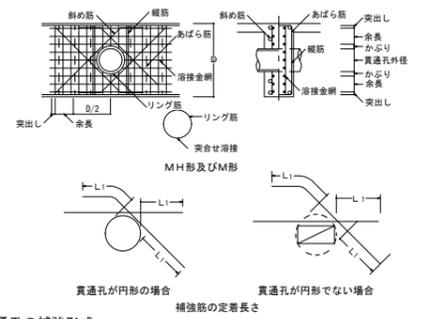
梁貫通孔及びその他の配筋

1. 梁貫通孔の配筋

- 1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。
- 2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- 3) 孔の上下方向の位置は、梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲に設けてはならない。
- 4) 孔は、柱面から、原則として、1.50 (Dは梁せい) 以上離す。
- 5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、下図による。
- 8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- 10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- 11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。



H形



H形配筋

2. 梁貫通孔の補強形式

Table with columns: 配筋種別, 斜め筋, 縦筋, 横筋, 上下筋, 配筋図. Lists reinforcement types for beam penetration holes.

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

Table with columns: 配筋種別, 縦筋, 溶接金網, 配筋図. Lists reinforcement types for beam penetration holes.

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

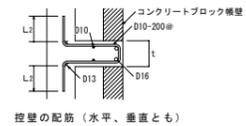
Table with columns: 配筋種別, 斜め筋, 縦筋, 溶接金網, 配筋図. Lists reinforcement types for beam penetration holes.

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

(注) 1. 大臣認定による既製品を使用する場合は、適用条件はすべて認定内容による。

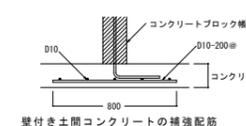
3. コンクリートブロック塀との取合い

1) 控壁の配筋



控壁の配筋 (水平、垂直とも)

2) 塀壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強



壁付き土間コンクリートの補強配筋

壁及びその他の配筋

1. 壁の基準配筋

1) 壁の基準配筋は下図による。

壁の基準配筋

Table with columns: 種別, 縦筋及び横筋, 断面図 (mm). Lists standard reinforcement types W12 through W20B for walls.

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

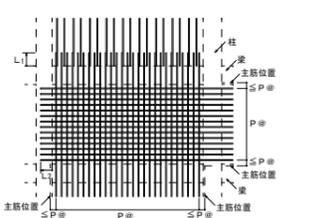
2) 片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋は下図による。

片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋

Table with columns: 種別, 縦筋及び横筋, 断面図 (mm), 階段の配筋種別. Lists standard reinforcement types KW1 and KW2 for walls receiving cantilever slab stairs.

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

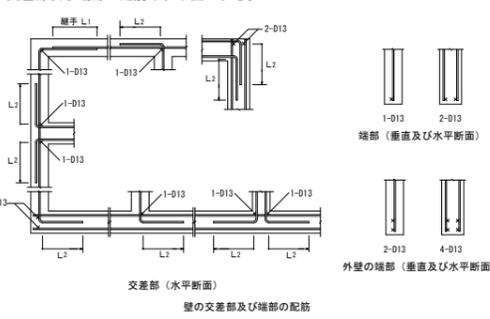
2. 壁の継手及び定着



壁の配筋

- Notes regarding reinforcement placement and lap lengths.

3. 壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。



壁の交差部及び端部の配筋

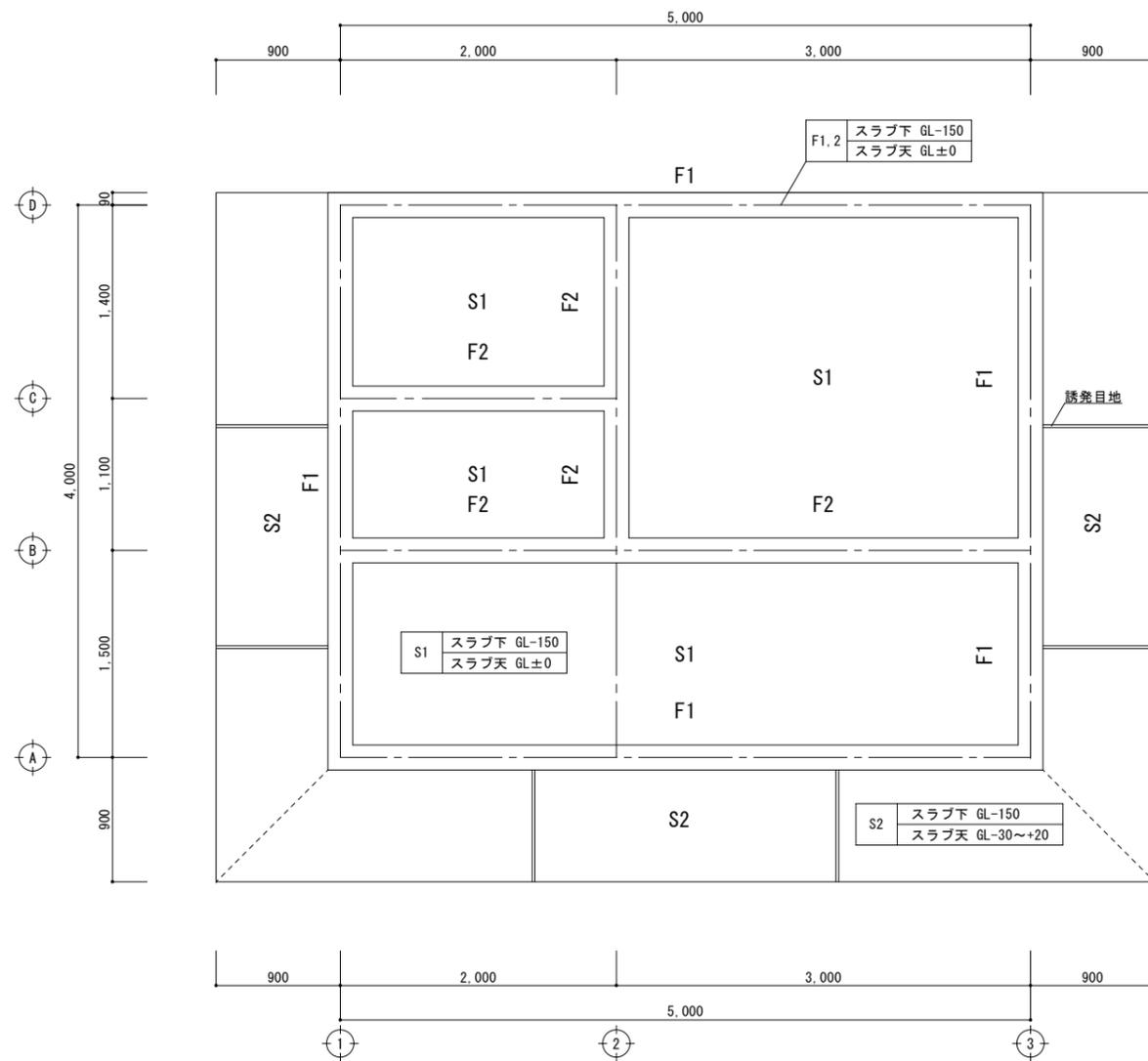
4. 壁開口部の補強

1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形又はB形とする。

壁開口部補強筋 (A形) 壁開口部補強筋 (B形)

Table with columns: 壁の種別, 補強筋. Lists reinforcement types for wall openings.

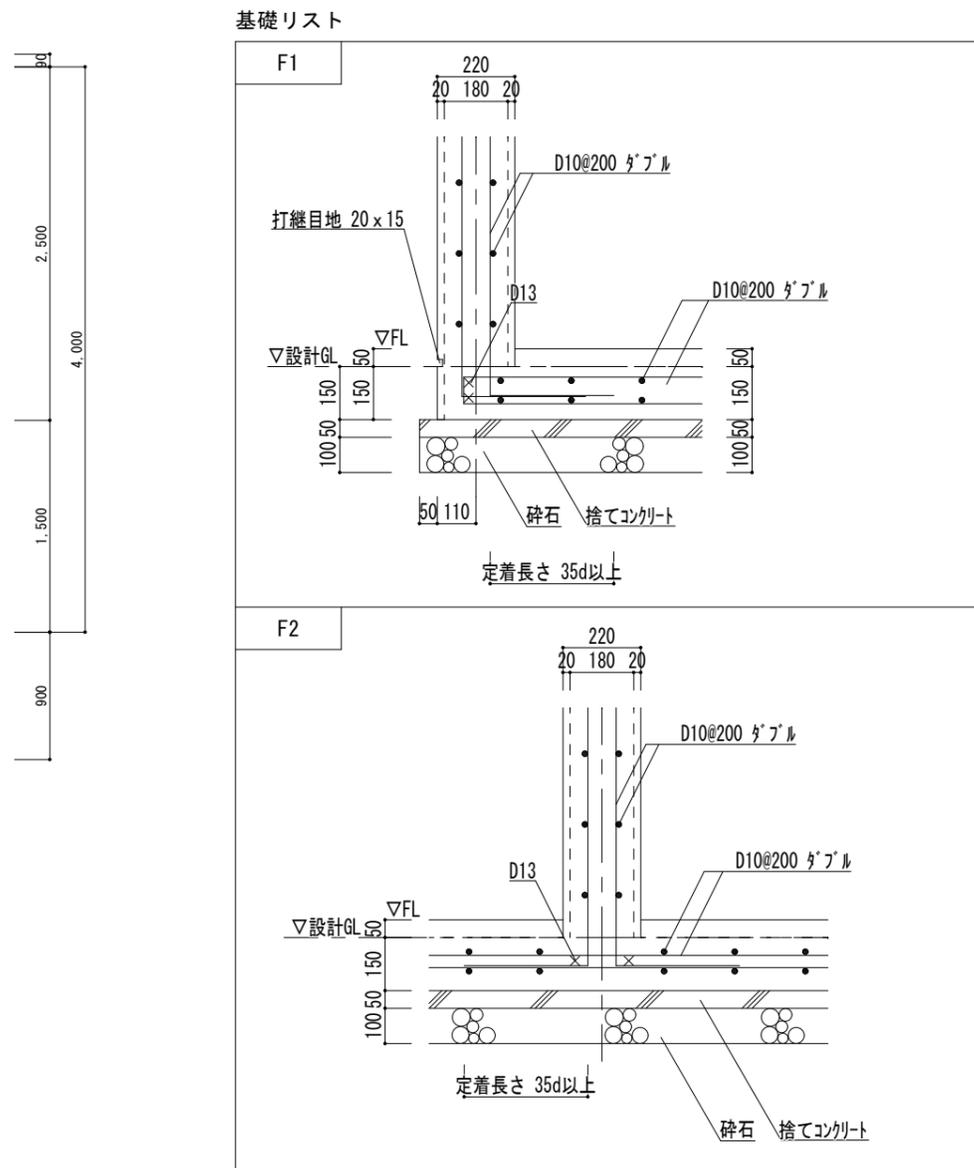
Table with columns: 工事名称, 図面名称, 福山市建設局建築部営繕課, 福山市. Lists project and drawing information.

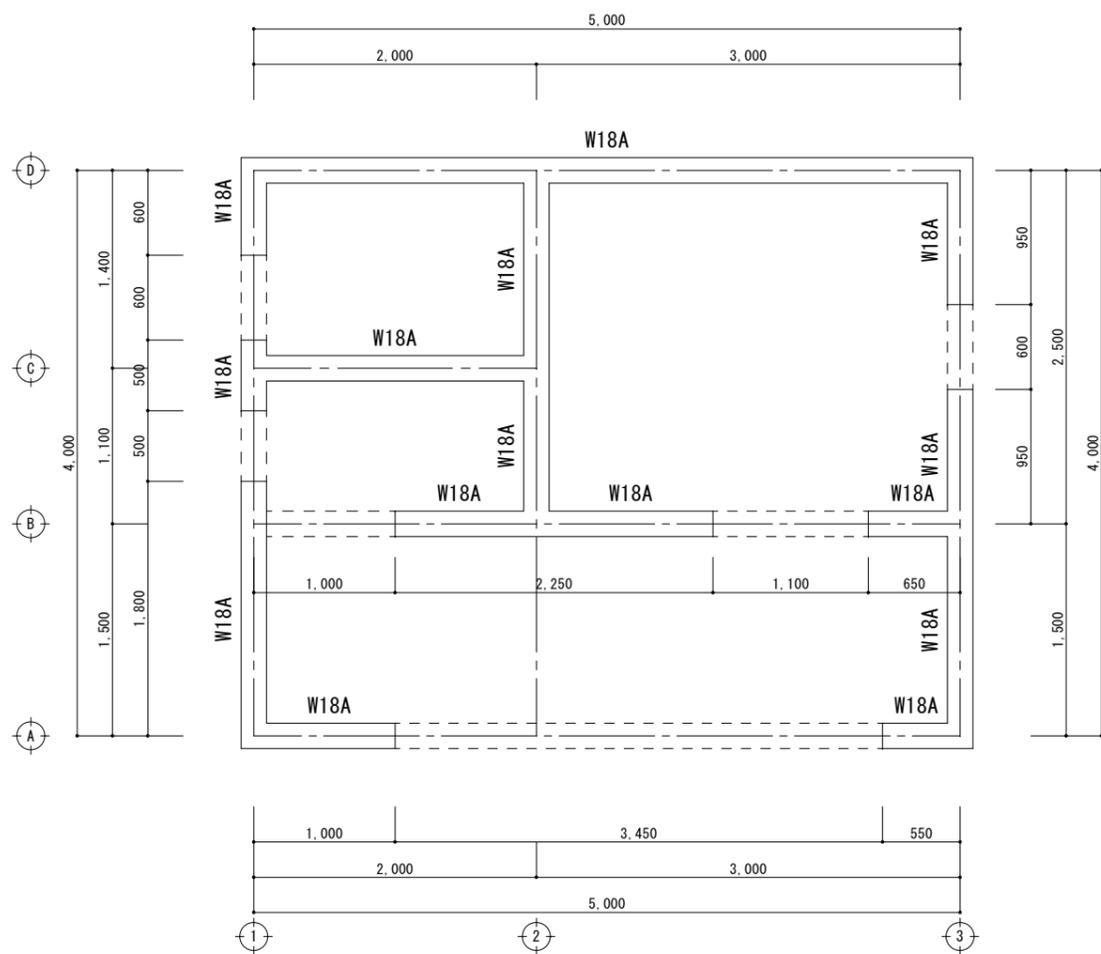


基礎伏図 S=1/50

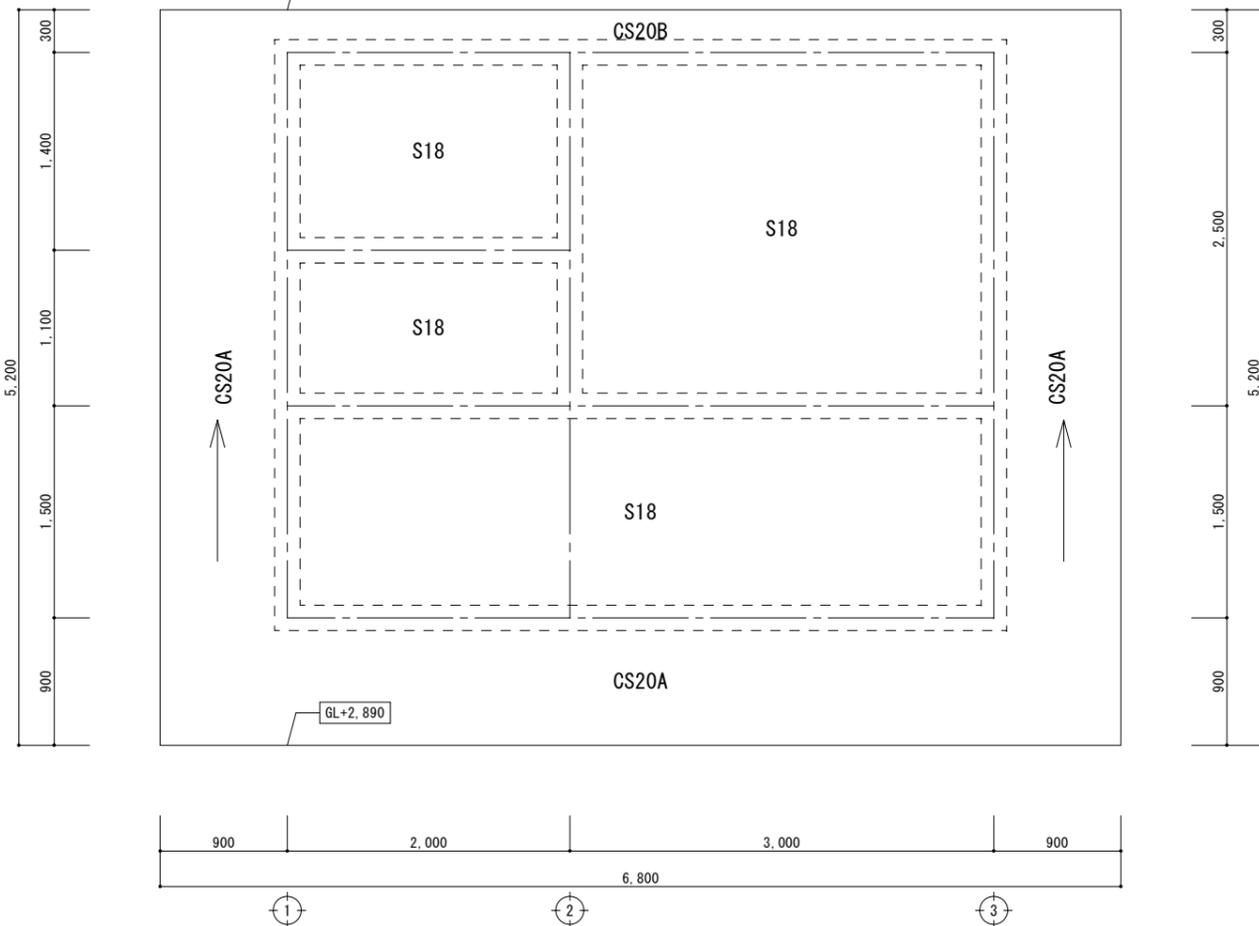
スラブリスト

符号	スラブ厚	位置	短辺方向(主筋)	長辺方向(配力筋)
S1	150	上端筋	D10-@200	D10-@200
		下端筋	D10-@200	D10-@200
S2	120~170	上端筋	D10-@200	D10-@200
		下端筋	D10-@200	D10-@200





1階伏図 S=1/50

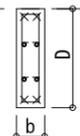


R階伏図 S=1/50

壁リスト

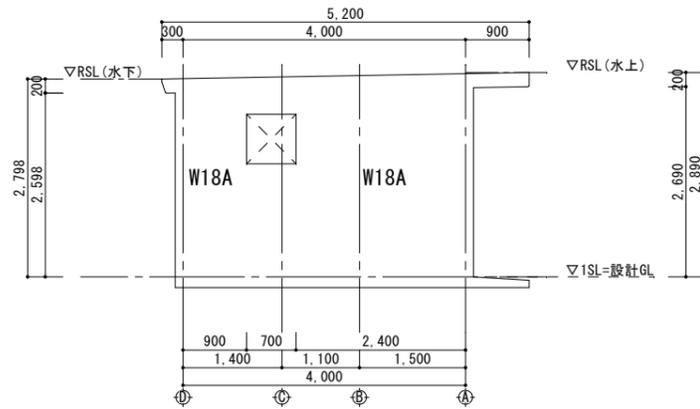
符号	壁厚	位置	配筋
W18A	180	縦筋	D10-@200 ダブル
		横筋	D10-@200 ダブル
開口部補強筋		縦筋	2-D13
		横筋	2-D13
		斜筋	2-D13

壁梁リスト

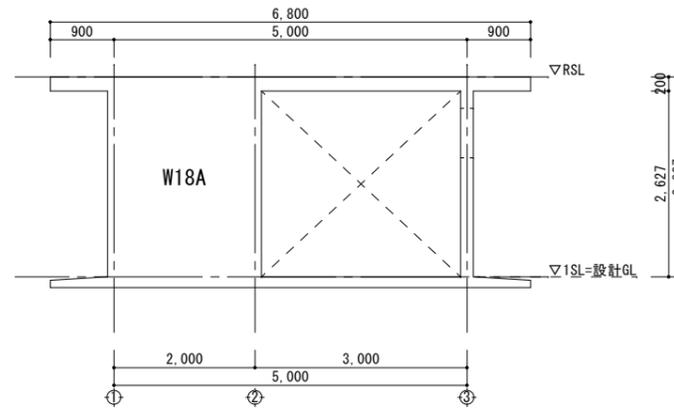
符号	G1
位置	全断面
▽ RSL 断面	
b x D	180x450
上端筋	2-D13
下端筋	2-D13
スタップ	2-D10 @200
腹筋	4-D10

屋根スラブリスト

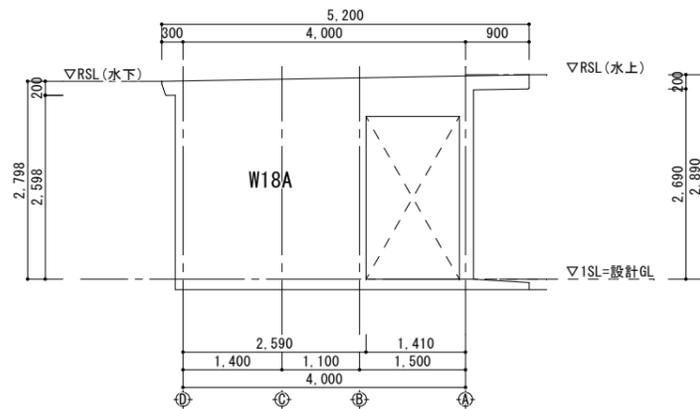
符号	スラブ厚		位置	短辺方向(主筋)	長辺方向(配力筋)
	元端	先端			
S18	180	180	上端筋	D10-@200	D10-@200
			下端筋	D10-@200	D10-@200
CS20A	200	200	上端筋	D13-@200	D10-@200
			下端筋	D13-@200	D10-@200
CS20B	200	200	上端筋	D13-@200	D10-@200
			下端筋	D13-@200	D10-@200



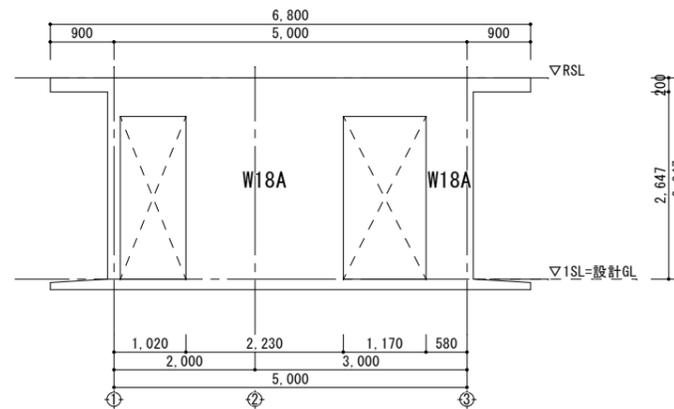
3通り軸組図 S=1/100



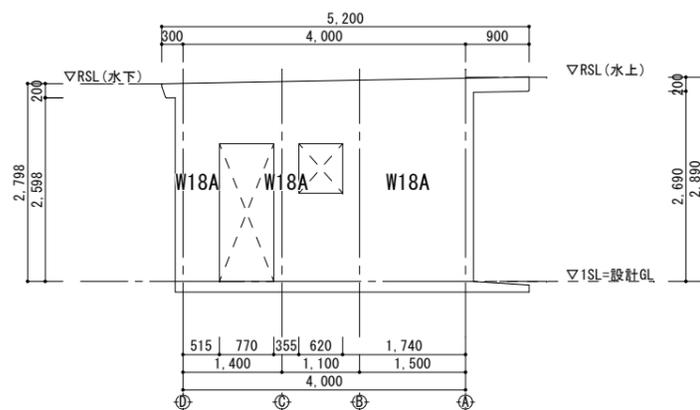
C通り軸組図 S=1/100



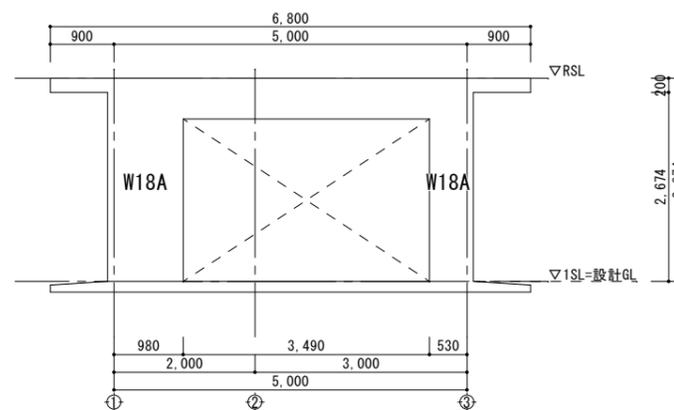
2通り軸組図 S=1/100



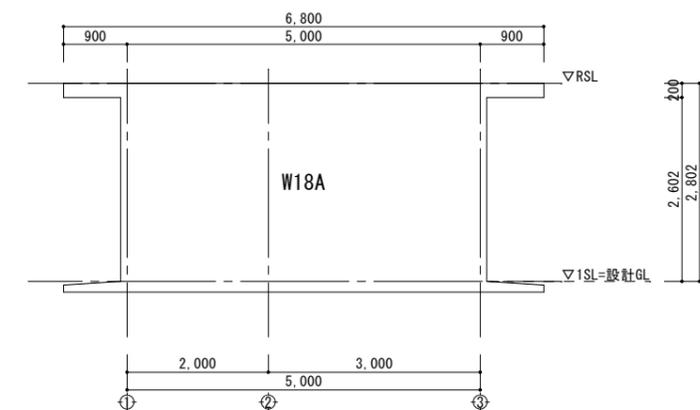
B通り軸組図 S=1/100



1通り軸組図 S=1/100



A通り軸組図 S=1/100



D通り軸組図 S=1/100

# 設 計 書

工事名称 (仮称) 川南公園便所新築工事

工事場所 福山市神辺町地内

## 【工事概要】

鉄筋コンクリート造 平家建て  
延べ面積 20.0㎡

## 【別途工事】

電気設備工事  
給排水衛生設備工事  
公園整備工事

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		





公衆便所						
名	称	数	量	単位	金額	備考
仮	設	1		式		
土	工	1		式		
地	業	1		式		
コン	クリート	1		式		
型	枠	1		式		
鉄	筋	1		式		
防	水	1		式		
石		1		式		
タ	イル	1		式		
屋	根及びとい	1		式		
左	官	1		式		
金	属製 建具	1		式		
塗	装	1		式		
内	外 装	1		式		
仕	上ユニット	1		式		
排	水	1		式		
発	生材処理	1		式		
	計					

公衆便所					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
仮設	直接仮設	1	式		
計					
土工		1	式		
計					
地業	一般地業	1	式		
計					
コンクリート		1	式		
計					
型枠		1	式		
計					
鉄筋		1	式		
計					
防水		1	式		
計					
石		1	式		
計					
タイル		1	式		
計					
屋根及びとい	とい	1	式		
計					

公衆便所					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
左 官		1	式		
計					
金属製 建具	鋼製建具	1	式		
計					
塗 装		1	式		
計					
内 外 装		1	式		
計					
仕上スポット		1	式		
計					
排 水		1	式		
計					
発生材処理		1	式		
計					

公衆便所		仮設		直接仮設		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
遣方	一般	34	m <sup>2</sup>			
墨出し	一般 RC・SRC造 地上階	34	m <sup>2</sup>			
養生	一般 RC・SRC造 地上階	34	m <sup>2</sup>			
整理清掃 後片付け	一般 RC・SRC造 地上階	34	m <sup>2</sup>			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 600×1700 布枠500×1枚 掛払い手間、運搬費、維持管理費共 12m未満 120日	91.3	m <sup>2</sup>			
内部仕上足場	脚立足場 掛払い手間、運搬費、維持管理費共 階高4.0m以下 60日	20	m <sup>2</sup>			
養生シート張り	防災I類 掛払い手間、運搬費、維持管理費共 120日	91.3	m <sup>2</sup>			
計						







公衆便所		型 枠				
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
型枠運搬費	4 t 車 30km程度 往復	180	m <sup>2</sup>			
型枠	普通合板型枠 壁式構造 基礎部 -	7	m <sup>2</sup>			
型枠	普通合板型枠 階高2.8m程度 壁式構造 地上軸部 タイル下地双共	173	m <sup>2</sup>			
型枠目地棒	打継目地 幅20 × 深さ15程度	59.5	m			
面木	面幅20mm程度	63	m			
計						











公衆便所		左 官				
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
壁 下地調整塗材	C-2 厚1~2mm程度 こて塗り 塗装下地 コンクリート面	44.6	m <sup>2</sup>			
外壁 複層塗装E アクリルタイル	ゆず肌状 ローテ塗り 下塗1回・ 主材塗1回・上塗2回 水系つやあり 材工共	44.6	m <sup>2</sup>			
下地調整費	コンクリート面 屋内外 C-1	13.3	m <sup>2</sup>			
軒裏 外装薄塗材E	砂壁状 吹付け 主材塗2回 材工共	13.3	m <sup>2</sup>			
建築用 コンクリートブロック	空洞ブロックC(16) 厚さ150mm 鉄筋、モルタル充填 材工共	54	個			
モルタル充填	建具枠口詰め 防水押えアルミアンクル取付部	1	式			
計						

公衆便所		金属製 建具		鋼製建具		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
AW-1	FIX窓 500×700 材工共	1	か所			
AW-2	FIX窓 600×600 材工共	1	か所			
LHD1	軽量鋼製上吊り片開き戸 材工共	1	か所			
SD1	鋼製両開き戸 材工共	1	か所			
SD2	鋼製片開き戸 材工共	1	か所			
型板ガラス	厚さ4 特寸 2.18㎡以下 シーリング 清掃共	0.7	㎡			
計						



公衆便所		内外装				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @300 インサート含む	14.3	m <sup>2</sup>			
天井 シンク <sup>テ</sup> せっこうボード <sup>テ</sup> 張り(GB-S)	厚 9.5 準不燃 下地張り	14.3	m <sup>2</sup>			
天井 化粧けい酸カルシウム 板張り	厚 6mm 不燃 アルミ <sup>テ</sup> ジョイント <sup>テ</sup> -共	14.3	m <sup>2</sup>			
天井廻縁	アルミ製 材工共	25.8	m			
木製棚	幅1,780×奥行450 棚、金物共 材工共	1	式			
計						

公衆便所		仕上ユニット				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
エビパーサルシート	EWC520ARN 同等品 材工共	1	基			
ベビーカーチェア	YKA15S 同等品 材工共	1	基			
P型手摺	T112CP31同等品 材工共 手洗い器	2	か所			
小便器用手摺	T112CU22 同等品 材工共	1	か所			
モップ掛けパネ	UTR422S同等品 材工共	1	か所			
荷掛フック	YKH22同等品 材工共	1	か所			
サイン	男子便所 FTS150A同等品 材工共	1	枚			
サイン	多目的便所 FTS300A同等品 材工共	1	枚			
天井点検口	一般タイプ アルミ製 内外枠共額縁 450角	2	か所			
計						



公衆便所		発生材処理				
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
運搬費	鉄 H2	1	式			
スクラップ	鉄 H2	0.1	t			
計						

